

N. D. NO. 423 (1-20)

昭和二十年十一月二十日
Nov. 20th, 1945

戰勢調査團「カーチス」少佐ヨリノ質問ニ對スル回答

Answer to Question of Lt. Commander Curtis, U. S. S. B. S.

海軍大佐 大前 敏一

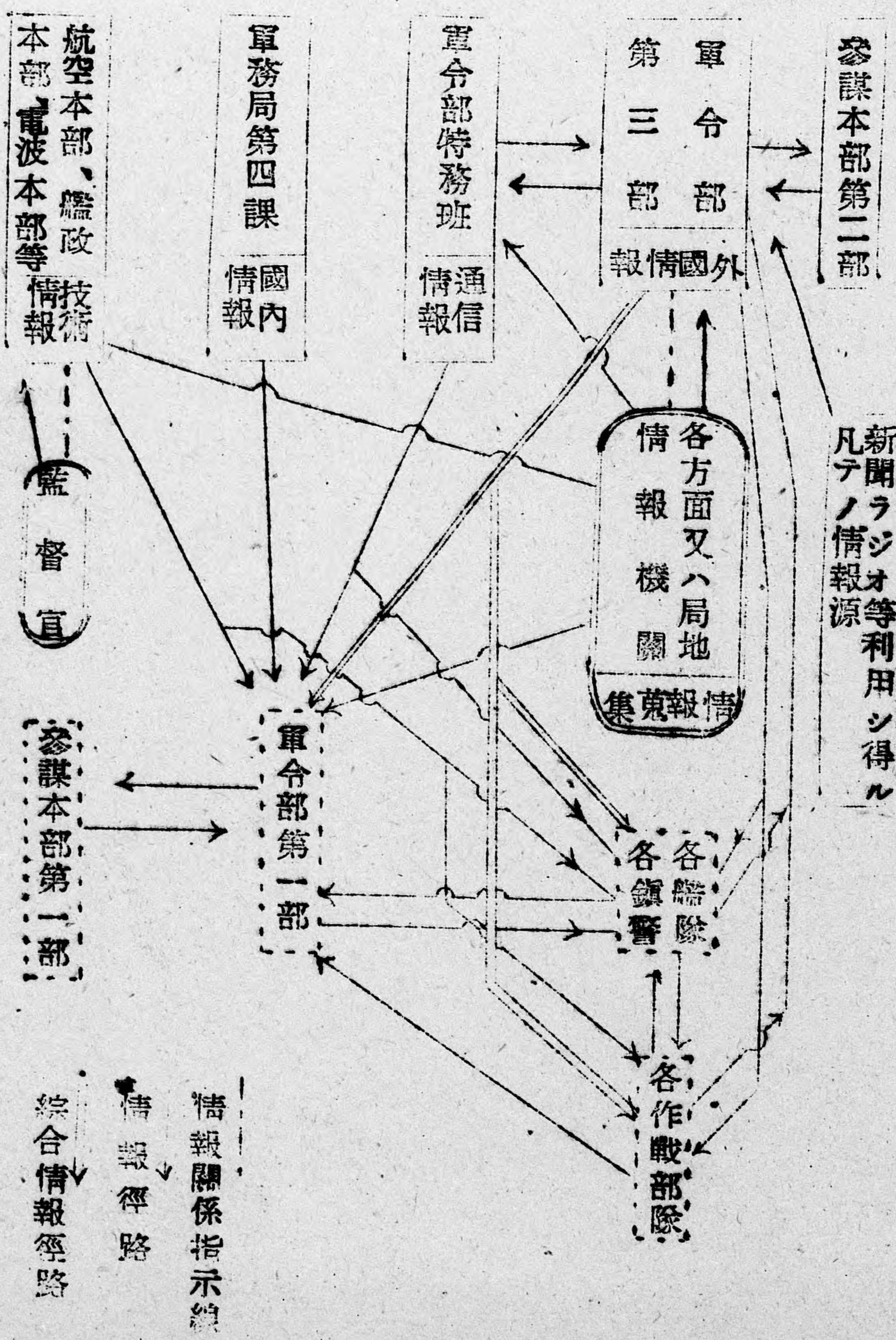
By Captain Inoue, Tachibana

マインソン大佐宛

Addressed to Captain Inoué

一編 組

(1) 組織概略圖解



新聞ラジオ等利用シ得ル
凡テノ情報源

(註) 軍司令部第三部ノ組織ハ省略ス

- (2) 陸軍情報 (航空關係ヲ含ム) 相當利用セルモ入手迄ノ費消時大ニシテ價值ヲ減却セル場合多シ
陸軍作戰部隊ヨリノ情報ハ海軍ニ關係アルモノハ全部送付シ來ルヲ常トセリ
政府機關情報ハ作戰ニ利用セラレタルコトナシ
最利用價值大ナリシハ海軍航空部隊ノ作戰情報ナリ
(以上ハ作戰ニ利用セル程度ヲ記述セルニ止リアリ)
- (3) 情報綜合ハ第三部ニ於テ實施セルヲ以テ詳細知悉セズ
- (4) 承知セズ
- (5) 各主要階級ニハ情報參謀 (中少佐級、通常通信參謀之ヲ除キ) ヲ配シ通信情報班 (少佐、大尉ヲ長トシ通常豫備士官約二名、下士官數名) ヲ置カレアリタリ、階級以下ニハ特別ノ配員ナキヲ通例トス

(6) 基地航空艦隊ハ各主要艦隊ト略同様ナリ

基地航空艦隊以下ニハ若干ノ情報班員アリタル外特別ニ配員ナシ

(7) 承知セズ

ニ採用竝ニ教育

- (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) 承知セズ

三 作 戦

(1) 情報參謀ハ情報ノ整理綜合ヲ行ヒ情況判斷資料ヲ整備ス

各艦情報士官(通例艦長ノ命ニ依リ通信長ガ情報士官ヲ兼ヌ)概ネ

右ニ準ズル任務ヲ遂行スルモ通信力等ノ點ヨリ程度劣ルコト勿論ナ

リ 飛行機(隊)發着時ノ情況説明及情況聽取ハ航空參謀又ハ飛行長之

ニ當ルヲ例トス、但シ情報參謀又ハ情報士官ト緊密ニ連絡シ實施ス

(2) 情報源及之ガ重要度竝ニ信賴度

(4) 情報入手ノ經路

(4)

(一) 作戰部隊ノ索敵偵察及作戰部隊ニテ蒐集スル情報

(二) 中央情報部ノ直接蒐集スル情報

(三) 在外武官ヨリノ報告

(四) 通信情報

以上各種情報ハ司令部第三部ニ於テ整理綜合ス

(五) 情報入手法ノ種別

(一) 既往ノ事實ノ統計的調査

(二) 世界各地ノ公共放送ノ調査

(三) 敵艦船航空機又ハ戦死者等ヨリノ押收文書

(四) 俘虜ノ陳述

(五) 陸軍其ノ他關係各部ヨリノ入手資料

(六) 通信情報

(1) 統計的調査ニ依ル通信量ノ變化

(2) 暗號及符字ノ習性竝ニ變化

(9) 電波輻射狀況竝ニ方位測定

(イ) 情報ノ價值判定

綜合情報ハ概ホ確實ト斷ジ得タルモ個々ノ情報ニ關シテ適確ニ之ガ査覈ヲ必要トス、重要視ノ順序左ノ如シ

(一) 押收文書

(二) 俘虜ノ陳述綜合 (單獨俘虜ノ陳述内容ハ別途確認ノ要アリ)

(三) 通信情報

(四) 公共放送竝ニ在外武官報ハ眞偽明確ナラザルコト多ク綜合判斷ノ要アリ

(五) 作戰部隊ノ戰果報告ハ一九四二年中期以後過大化シ眞相判斷ニ苦慮セリ

小官ハ艦船攻撃ノ場合 目標、使用彈量、攻撃狀況、確認者ノ信頼度等ヲ考慮シ概ホ小艦型一段遞下ヲ規準トシ、航空機攻撃ノ場合ハ墜一〇機以内オ一〇機一五〇機 $\frac{1}{3}$ 五〇機以上ト判斷セルモ尙不充分ナリキ

(6) (5)

(六) 陸軍ヨリノ情報ハ一般ニ誇大ニシテ特ニ戰果報告ハ殆ド信ヲ措キ難ク全般的ニ價值判斷ヲ周密ニ行ハザレバ意外ノ錯誤ノ因タルヘシ

(3) 情報處理

(一) 暗號編譯後内容重大ナルモノハ淨書スルコトナク之ヲ關係ヲ謀以上ニ速報ス

(二) 一般情報ハ淨書後關係者ニ同覽ス、所要ニ應ジ關係情報ヲ添付ス

(三) 情報中處置ヲ必要トスルモノハ主務參謀ニ於テ處置案 (電報) ヲ附シ參謀長、長官ノ査閱ヲ受ク

(四) 同覽竝ニ處置濟情報ハ情報參謀又ハ情報士官之ヲ整理保管ス

(五) 適當ナル期間又ハ内容ニ應ジ綜合情報ヲ作製スルヲ例トス

(4) 情報ノ弘布

情報ノ弘布ハ全般的ニハ軍令部第三部、各艦船部隊ニ對シテハ各當該上級司令部ニ於テ擔任ス

通信情報ニ關シテハ特務班ニ於テ弘布ヲ擔任ス
重要作戰時機等ニ於テ處置ト關聯ヲ有スル情報ハ軍司令部第一節ニテ
電報スルコトアリ
重要情報ハ弘布前軍司令部第一節、第三節相互協議スルヲ例トスルモ
急ヲ要スルモノハ爾後通報スルニ止ムルコトアリ
情報機關ニ對スル情報弘布ニ關シテハ承知セズ

(5) 情況判斷

(1) 兵力

既往ノ事實ノ統計的調査ヲ基礎トシ之ニ各種情報ヲ加味シ損害喪失修理完了等ヲ推定シテ判斷ス

通信情報ハ損害、喪失、修理完了等ニ關シ有力ナル資料ヲ提供ス
尙陸戰兵力量ニ關シテハB.A.M.S.ノ統計的調査ハ有効ナリ

(2) 米側損害

各攻撃部隊ノ報告ヲ嚴密ニ査定シ損害ヲ推定シ他ノ凡ユル對照查

料ト比較研究シ判斷ス

(3) 米側ノ企圖

米側ノ戰爭指導方針ハ公表資料ノ連續調査ニ依リ概不明瞭ナルヲ以テ之ニ基キ軍ノ企圖ノ大綱ヲ推定シ世界情勢、米側作戰準備、戰勢進展情況、天象氣象ノ影響等ヲ勘考シ且米國軍指揮官ノ性格作戰前ノ恒例的作戰會議ノ顔觸、時期、米國要人ノ言動等ヲモ加味シ判斷ス

尙米側作戰部隊ノ準備的行動例ハ潜水艦ノ出現狀況、飛行機ノ偵察狀況、諜報員潛入狀況等ニ依リ逐次作戰目標ヲ明確ニシ又作戰時機ハ兵力準備(B.A.M.S.狀況ハ有力ナル資料タリ)並ニ其ノ集中狀況ニ依リ概ニ判斷シ得タリ

以上戰略判斷ニ基キ適時戰術偵察ヲ實施又ハ強化シ常ニ通信情報ニ注意シツツ精密判斷ヲ行ヘリ

(5) 情報獲得方法

(1) 俘虜ヨリノ情報入手 承知セズ

(2) 鹵獲文書

中央ニ於テ調査シ主要事項ハ速報シ爾後細密検討ノ上情報トシテ頒布ス

(3) 土民ノ利用

其ノ事實アルヲ知ラズ

(7) 獨國情報ノ利用

技術情報ハ相當有効ニ活用セラレタリト聞タモ詳細承知セズ

航空情報中ニモ有用ナルモノアリタルガ如シ

其ノ他ノ情報ハ我ヲ益セルモノアリシヲ聞カズ

(8) 重要裝備ニシテ當面ノ作戰並ニ戰鬪實施上必要ナルモノハ當該部隊

ニ於テ關係各部ニ報告通報シ且中央ヨリノ當該物件處理ニ關スル指

令ニ基キ移送又ハ現地専門家調査ヲ行フヲ例トス

其ノ結果中央擔任部局ニ於テ報告ヲ作成シ所要ノ部隊官衙作業廳等

ニ對シ周知ノ方途ヲ執ル

(9) 米側郵便ヨリ資料ヲ入手セル例ヲ知ラズ

(10) (11)

擊墜機ヨリノ書信日記ヲ入手セル例ハ知ラザルモ公文書ヲ相當鹵獲セリ

(10) 承知セズ

(11) 判斷資料ハ現存セズ

一九四五年六月一日ノ情況判斷ハ「カーチス」少佐ニ管轄セリ

四 「ターゲット・プラクティス」

(1) (2) (3) 承知セズ

但シ模型ニ對シ攻撃ヲ演練セル例トシテ布哇及「マリアナ」ノミハ仄聞セリ

海陸隊ニ於ケル情報業務

(1) 大型空母

(イ) 地上攻撃ノ場合ハ事前撮影ノ航空寫眞ニ基キ所要ノ指示ヲ行フ豫メ作成セル地圖ニ依ル

野戰及商船攻撃ハ偵察報告ニ依リ陣形ヲ承知シ陣内配列艦船ノ「タ」ハ米側公刊資料ヨリ入手セルモノノ綜合推定ニ依ル

情報源毎ノ情報ノ質量竝ニ價值ニ關シテハ承知セズ

(ロ) 航空參謀又ハ飛行長

(ハ) 同 右

(ニ) 各搭乗員ノ報告ヲ檢討シ符合セザル點實情ニ合セザル點等ヲ正

ニシ航空參謀飛行長ハ價值判定ヲ行ヒ其ノ主要點ヲ關係各部ニ

シ情報トシテ報告通報ス

(ホ) 定型ナシ

(ヘ) 承知セズ

(11)

(12)

(1) 情報士官ガ兼務トシテ情報ノ整理、記録ノ作成等ヲ行フ
極メテ有要ナルモ資格、訓練等ニ關シテハ承知セズ

(2) 小型空母

大型空母ト差異ナシ

(3) 戰艦、巡洋艦、驅逐艦

(イ) 各種種共情報士官兼務ニテ置カレ母艦同様ノ任務ヲ行フモ資格
線等ハ承地セズ

(ロ) 左記情報源

(一) 當面作戰目的 上級司令部ノ作戰命令ニ明示

(二) 長期計畫 戰艦、巡洋艦、驅逐艦共大本營命令、聯合艦隊
令ニ指摘サレアル以外ノ情報ハ入手シアラズ

(ハ) 承知セズ

(4) 戰艦、巡洋艦、驅逐艦ニ乘艦セル通信謀報班ニ付人員(士官及下

官兵)ノ數及教育竝ニ情報源、情報ノ量及信頼度、情報傳達法

(1) 編制

一般艦船ニハ通信謀報班ハ配員セラレ非ズ(要員不足ノ爲) 情報整理班ニ傳達ハ主トシテ通信長之ニ當ルヲ例トス、之等任務遂行ノ爲ニハ特別ノ配員ヲ置カズ

(2) 教育

高等科學生教程ニ於ケル教育ノ外特別ノ教育ヲ行ハズ

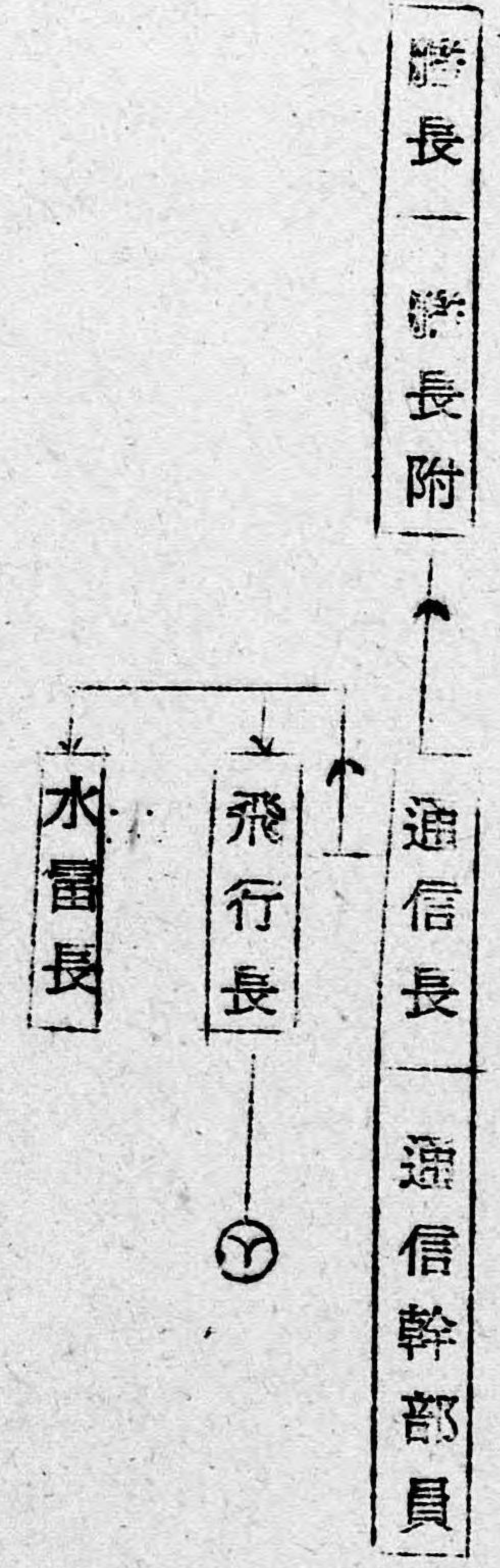
(3) 情報源

通信謀報 特務班及各通信隊ノ提供スル情報

其他ノ情報 關係作戰部隊ノ戰鬥報告班ニ作戦情報

(4) 情報ノ量ニ關シテハ正確ナル資料ナシ

(5) 傳達法



(13)

(14) 艦隊、巡洋艦、驅逐艦ノ通信測定班ニ付人員(士官及下士官兵)ノ

數及教育班ニ信頼度

(1) 編成

航海長 航海士

通信測定補助員

通信測定補助員ハ定員トシテハ定メラレ非ズ、通常左ノ人員ヲ以テ編成ス

下士官兵(高信) 二

(高操) 一 (航跡員ヲ以テ充當ス)

(無章) 一

(2) 教育

通信測定補助員ノ教育

(1) 教育期間

航海學校高等科練習生(信號)ノ全員ニ對シ約三〇時間及乘艦實習一回ヲ實施ス

(2) 教育項目

天測作業ヲ主トシテ測角及計算

(イ) 艦位測定補助員ノ任務

(一) 航海長ノ實施スル天測ノ計算ノ補助ヲ主任務トシ狀況ニ依リ天測ヲ實施ス

(二) 航跡儀ニ依リ推定位置ノ算定ヲ補助ス

六 戰隊、艦隊（航空艦隊、方面艦隊GF）以上ノ各司令部ニ於ケル情報任務
情報擔當者、人員（事務並ニ兼務別）

(イ) 情報任務情報擔當者

聯合艦隊、方面艦隊、航空艦隊司令部

情報參謀（通信參謀ノ兼務スルモノアリ）

其ノ他ノ艦隊及戰隊司令部

通信參謀（兼務）

(イ) 情報班ノ人員數

所 屬	情報參謀	豫士官	特務士官	下士官兵
聯合艦隊司令部	一（專）	三	一	三五
南西方面艦隊司令部	一（兼）	一五	一五	二七〇

中部太平洋方面艦隊司令部	一（兼）	一〇	一〇	二五〇
南東方面艦隊司令部	一（兼）	一〇	三	一七〇
支那方面艦隊司令部	一（兼）	一〇	五	一五〇
北東方面艦隊司令部	一（兼）	八	三	一〇〇
航空艦隊司令部	一（專）	三	二	三五
其ノ他ノ艦隊司令部	一（兼）	二	一	一五
航空艦隊司令部	一（兼）	二	一	一五
海上護衛隊司令部	一（兼）	一	一	一五
記 事	本表ノ數ハ標準ノ定員ニシテ作戰ノ狀況ニ應ジ其ノ都度臨時ニ増減セラレタリ			

(イ) 情報班員ノ情報教育

(一) 士官

海軍通信學校高等科學生教育ノ外特別ノ教育ヲ行ハズ専門的知識ハ主トシテ資料ニ依ル自學ニ依レリ

(一) 豫備士官

基礎教育 四ヶ月

於海軍通信學校

(二) 下士官兵

練習生別		教育期間	教育場所
高等科	普通科	六ヶ月	須賀海軍通信學校
		六ヶ月	

(三) 右各部ノ情報源及其ノ重要度並ニ信頼度

(一) 情報源

(1) 特務班及各通信隊ノ通信諜報資料

(2) 各部ニ於ケル傍受資料(参考トセル程度)

(二) 重要度

索敵能力劣化ノ後ハ當面作戰情報ノ外最モ重要ナル情報資料トシテ重視セラレタリ

(三) 信頼度

情報確認ノ手段ナキ爲確度ニ對スル正確ナル評價不能ナリシモ概ネ六〇%程度ノ信頼ヲ置キタリ

(四) 當面作戰情報並ニ戰鬪報告ノ情報傳達法

(一) 東京通信隊ハ全作戰海域ノ重要作戰情報並ニ戰鬪報告ヲ全軍ヘ地方ノ各通信隊ハ當該方面ノ作戰情報並ニ戰鬪報告ヲ當該方面ノ部隊ヘノ放送ヲ擔當セリ

(二) 各司令部ハ其ノ麾下部隊ヘ對シ綜合情報ノ傳達ヲ擔當セリ

七 米側對空兵器、對空方式及對空砲配置ニ關シ

(1) 航空寫眞ニ依ルモノヲ指示シ尙砲火ノ密度威力等ニ關スル前例ヲ承知セシメタリ

(2) 寫眞偵察並ニ各同ノ偵察、攻撃時等ノ記録ニ依ル

(一) 砲ノ射程ニ依リ各進入降高度別ノ密度ヲ計算的ニ算出セルコトハナカリキ

(二) 特ニ本目的ノため人員ヲ配置セルコトナシ

(二) 資料ナシ

ハ有 効 度

(1)

(一) 聯合國及米國航空兵力ニ關シ

生産機數及米國公表太平洋正面充當率ニ依リ總兵力ノ粹ヲ知リ次
ニ各航空基地收容力ヲ偵察又ハ推定ニ依リ判斷シ基地航空兵力ヲ
又母艦數竝ニ各艦搭載數ニ依リ母艦航空兵力ヲ知得セリ
作戰ニ當リ大ナル誤判斷セルコトナシ

(例) 一九四五年五月ニ於ケル判断

地 域	北 方		中 部				太 平 洋				比 島	南 西 諸 島	南 洋		太 平 洋		印 緬 方 面	支 米 航 空 部 隊	郵 米 支 混 合 部 隊	印 支 間 輸 送 機	艦 隊 航 空 兵 力	合 計
	ア ラ ス カ	ア リ ウ シ ヤ シ	エ リ ス ギ ル バ イ ト	サ モ ア 方 面	マ ー シ ヤ ル	マ リ ア ナ	ペ リ リ ユ ー	ウ ル シ ー	硫 黄 島	布 哇			輸 送 機	東 部 ニ ウ ギ ニ ヤ	西 部 ニ ウ ギ ニ ヤ	ニ ギ ウ 方 面						
五月末	4000	3000	3000	3000	2000	2500	2500	2750	8000	2000	2400	2500	7500	2000	2000	3000	3000	1500	4000	35000	155150	
六月末	4000	3000	1500	2000	2000	2500	2500	5000	8000	2000	3000	6000	2500	2000	2000	3000	3000	1000	4000	36000	141500	
七月末	4000	3000	1500	2000	2000	2500	2500	5000	9000	2000	6000	6000	2500	2000	2000	3000	3000	1000	4000	37000	160000	
八月末	4000	3000	1500	2000	2000	2500	2500	5000	9000	2000	6500	6000	2500	2000	2000	3000	3000	1000	4000	38000	178500	
九月末	4000	3000	1500	2000	2000	2500	2500	5000	9000	2000	8700	6000	2500	2000	2000	3000	3000	1000	4000	38000	193700	

(備考) 一七月末頃ヨリ在隊兵力ノ一部右正面ニ出現ヲ豫想ス
ニ本土方面作戰ニ参加スベキ航空兵力推定別表ノ通

(21)

(22)

別表

期日	マリアナ方面	硫黄島	南西諸島	比島方面
5月末	B-29×650 B-24×50 PB4Y×80 } 800 fc×80 艦上機×100	B-29×40 P-51×200 } (不時着) P-61×25 } 275 其ノ他×10	P-47 }×100 P-51 } 艦上機×100 } 240 PV×20 彡×40	(P-47 P-61) f ^c (B-51 F6F)×900 (P-38 F4U) f ^b B-24×450 } 1,850 PB4Y×100 PV×50 B-25×200 A-20×100 其ノ他×50
6月末	B-29×700 其ノ他同上 } 850	B-29×50 B-24×150 } 約 P-51×250 } 500 P-61×30 其ノ他×10	P-47 }×250 P-51 } P-61 } 艦上機×100 } 460 B-24×50 PV×20 彡×40	f ^c ×1000 f ^b ×1100 (B-29×150 ヲ含ム) } 2,150 其ノ他×50
7月末	B-29×85 其他同上 } 1,000	同 上	P-47 }×300 P-51 } P-61 } 艦上機×100 } 600 B-24×150 PV×30 彡×40	f ^c ×1,500 f ^b ×1,000 (B-29×300 ヲ含ム B-17 B-24×70 B-17 B-24 以外同上) 其ノ他×50 } 2,500
8月末	同 上	同 上 B-24、B-29ト代替スルヤ モ知レズ	P-47 }×300 P-51 } P-61 } 艦上機×100 } 650 B-24×200 PV×30 彡×40	f ^c ×2,000 f ^b ×2,000 (B-29×400 ヲ含ム 其他同上) } 4,100 其他×100
9月末	同 上	同 上	P-47 }×400 P-51 } P-61 } 艦上機×100 B-24×300 PV×30 彡×40	f ^c ×2,500 f ^b ×2,000 (B-29×500 ヲ含ム 其ノ他同上) } 5,100 其ノ他×100

a	U	B
209 / 289	16 / 49	20 / 21
228 / 308	25 / 56	21 / 22
244 / 324	35 / 64	23 / 23
254 / 331	36 / 64	24 / 24

一 本表ハ四月末米國發表數字ヲ基礎トシ天
 號作戦戦果ヲ加味セルモノナリ
 (分母ハ保有兵力。分子ハ對日作戦充當
 兵力)
 二 沈又ハ大破艦艇ハAニ就イテハ全部大破
 三 就イテハ沈及大破各半數ト推定シ最
 四 新月空母ヲ四月ハニ残半數作戦加可能トス
 五 新空母ヲ四月ハニ残半數作戦加可能トス
 六 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 七 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 八 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 九 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 十 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 十一 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 十二 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 十三 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 十四 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 十五 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 十六 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 十七 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 十八 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 十九 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 二十 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 二十一 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 二十二 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 二十三 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 二十四 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 二十五 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 二十六 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 二十七 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 二十八 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 二十九 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 三十 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 三十一 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 三十二 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 三十三 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 三十四 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 三十五 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 三十六 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 三十七 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 三十八 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 三十九 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 四十 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 四十一 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 四十二 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 四十三 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 四十四 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 四十五 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 四十六 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 四十七 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 四十八 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 四十九 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 五十 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 五十一 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 五十二 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 五十三 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 五十四 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 五十五 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 五十六 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 五十七 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 五十八 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 五十九 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 六十 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 六十一 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 六十二 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 六十三 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 六十四 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 六十五 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 六十六 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 六十七 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 六十八 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 六十九 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 七十 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 七十一 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 七十二 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 七十三 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 七十四 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 七十五 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 七十六 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 七十七 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 七十八 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 七十九 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 八十 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 八十一 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 八十二 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 八十三 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 八十四 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 八十五 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 八十六 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 八十七 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 八十八 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 八十九 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 九十 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 九十一 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 九十二 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 九十三 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 九十四 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 九十五 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 九十六 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 九十七 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 九十八 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 九十九 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 一百 未作戦参加可能トス又「ボクサー」ハ八月
 保有兵力中ニハ英ニ讓渡セルモノ及沖
 網作戦前ノ喪失數ヲ含ミアル算アリ

Antitiam

a A	A	艦種
58 / 75	15 / 26	五月末
64 / 80	20 / 27	六月末
70 / 85	25 / 28	七月末
74 / 89	26 / 28	八月末

一 本表ハ四月末米國發表數字ヲ基礎トシ天
 號作戦戦果ヲ加味セルモノナリ
 (分母ハ保有兵力。分子ハ對日作戦充當
 兵力)
 二 沈又ハ大破艦艇ハAニ就イテハ全部大破
 三 就イテハ沈及大破各半數ト推定シ最

記 事

主要海上兵力

(一) 米海軍及地上兵力ノ位置並ニ組成
 海軍兵力ハ公表資料ニ依リ新造艦船ノ情況ヲ詳ニシ之ヲ保有量ニ
 加算シ總兵力ヲ推算シ之ヨリ戦闘報告ニ依ル戦果推定セル量ヲ減
 シ兵力ヲ算定セリ
 地上兵力ハ米側公表資料ニ依リ算定セリ
 一九四五年五月判斷セル所左ノ如ク作戦上必要ナル資料ハ概ネ充
 足セラレアリタリ

地上兵力

記	區分	陸					海兵師團	合計
		步兵師團	裝甲師團	空輸師團	騎兵師團	計		
<p>一 本表ハ左ノ假定ニ基キ推算ス (1) 五月以降毎月二個師團ヲ次々四ヨリ對日作戰ニ増派ス (2) 歐洲西部戰線充當兵力約六十個師團中差當リ其ノ約半量ヲ左ニ依リ對日戰ニ轉用ス</p>	四月末	43 90	4 22	2 10	1 2	5 10	57 144	
	五月末	44 90	4 22	2 10	1 2	6 10	59 144	
	六月末	44 90	5 22	2 10	1 2	7 10	61 144	
	七月末	53 90	7 22	3 10	1 2	7 10	73 144	
	八月末	70 90	10 22	4 10	1 2	8 10	95 144	
	第二次 約二〇 六月	第一次 約一〇 五月中下旬	同次 兵團數 歐洲出發	同次 兵團數 比島方面到着	同次 兵團數 作戰準備完成	第二次 約二〇 八月末迄	第一次 約一〇 七月末迄	第二次 約二〇 八月末

(註) 轉用兵力所要裝備ノ相當量以テ作戰所要重要品ハ米本國ヨリ直接比島方面ニ輸送ス
 二 各月末兵力ハ分母ハ保有兵力、分子ハ對日作戰充當豫想兵力ヲ示ス

(三) 米軍作戰能力

米國戰爭指導方針（要人ノ言說等ヨリ承知）竝ニ高級指揮官ノ性格等ヨリ推定シ得タリ 判斷ハ概ネ正鵠ヲ得アリタリ

(四) 米軍ノ企圖

極力人的損耗ヲ願慮シツツ合理的速戰速決主義ノ下ニ作戰ヲ推進シ來タリタル米軍ノ企圖ハ「ソロモン」方面作戰以來概ネ適確ニ判斷シ得タリ

(五) 大規模ナル米軍ノ移動竝ニ上陸作戰ハ事前ニ判斷シ得タリ

右ハ米軍ノ一般企圖、兵力準備、通信情況等ヨリ推斷可能ニシテ開戰以後不意打ヲ蒙リタルハ「ガ」島上陸ヲ除キ殆ドナシ 硫黃島來攻一月頃、沖繩來攻三月頃、判斷シ準備ヲ進メ居リタルガ如キ其ノ例ナリ

(六) 艦隊ニ對シテ軍令部第三部ニ於テ適時適切ニ情報ヲ出シ又作戰部隊相互間ニ於テモ作戰情報ノ通報適切ニ行ハレアリタリ

(七) 聯合軍竝ニ米軍技術ニ關スル情報ハ概ネ信賴スルニ足ルモノト認メ居タリ

(八) 米軍捕虜ヨリ聽取セル情報ハ有效ナルモノ相當アリタリ

(九) 航空寫眞竝ニ偵察

(一) 日本海軍ハ極力寫眞情報ノ利用ヲ謀ルモ一般航空戦力ノ不振特ニ偵察艦視ノ戰前ノ慣習ニ患ハサレ實施之ニ伴ハザリキ
(二) 一九四三年中期頃迄ハ相當實用シ效果ヲ舉ゲタルモ爾後ハ優秀ナル偵察員ノ不足等ニ依リ極メテ貧弱ナル情況ナリキ
(三) 偵察航空隊ニ於テ寫眞ヲ攝影現像シ其ノ寫ヲ關係各部ニ配布スルヲ例トセリ

(十) 南東方面艦隊ニ於テハ一九四三年八月頃ヨリ寫眞整理班ヲ設ケタリ

(一) 陸上各航空 一個偵察航空隊ヲ配屬ス
(二) 母艦ヨリ成ル艦隊ニハ偵察機約三〇機程度
(三) 一個偵察航空隊ニハ彩雲常用二十四機、月八機、計三十二機ノ定數ナリシモ實數ハ遙ニ下廻ル青兒ナリ

(2) 偵察機數、其ノ有効度、空地間ノ情報連絡法等ニ關スル意見

(一) 偵察機數

帝國海軍ハ開戰以後相當期間洋上搜索偵察ニ一式陸上攻撃機、九七式及二式大艇、軍艦搭載水上機、母艦搭載艦上攻撃機ヲ使用セシモ其ノ性能(特ニ夜間性能)ニ關シテナリシ爲偵察専用ノ高性能機ノ出現ヲ促セリ

母艦搭載偵察機トシテハ二式艦上偵察機基地用偵察機トシテハ彩雲出現セシモ前者ハあ號作戰以後若干數母艦ニ搭載使用セシモ作戰上大ナル寄與ナカリキ

彩雲ハ當初第一航空艦隊ニ配セラレ「マリヤナ」作戰ニ参加以來爾後帝國海軍偵察兵力トシテ重用セラレタル機種ナリキ

偵察兵力ニ關シテハ彩雲ノ生産少ナク「マリヤナ」作戰當時第一航空艦隊ハ彩雲數機ヲ保有シタルニ過ギズ

彩雲ノ定數概ネ充實シタルハ本年四月天號作戰當時ナリシモ其ノ

實動率極メテ不良ニシテ連日ノ偵察ニ堪ヘ得タルハ保有三十二機中概ネ八機程度ニシテ開戰ヨリ終戰迄帝國海軍ハ偵察兵力不足ニ悩ミタリ

(二) 其ノ有効度

彩雲ハ高度五千米附近ニ於テ偵察ト略同速ニシテ晝間警戒嚴重ナル敵機動部隊ニ對スル偵察機トシテハ極メテ有効ナル兵力ナリシモ幾多整備上ノ缺陷ヲ有シ實動率不良ナル難點ヲ有セリ

二式大艇、一式陸攻、紫電、百式司偵ハ彩雲不足ノ代用トシテ使用セラレタルモ二式大艇、一式陸攻ハ性能ノ關係上電探ヲ裝備シ夜間偵察機トシテ使用セラレタルニテ有効ナリキ

紫電ハ通信力ノ不足ニ依リ百式司偵ハ洋上航法能力ノ不足ノ爲事ヲ近距離ノ洋上偵察乃至陸上基地ノ偵察ニ使用セラレタルモ有効度大ナラズ

(三) 空地間ノ情報連絡法

偵察機ハ所要ニ應ジ出發基地及中樞司令部基地ト隨時無續通信ニ依リ交信ヲ行ヒ所要ノ情報ヲ交換ス

(四) 各戰期ニ於ケル索敵圖

作戰ノ要求ニ依リ異ナルモ其ノ標準概ネ左ノ如シ

- (イ) 彩 雲 五五〇哩
- (ロ) 一式陸攻 六五〇哩
- (ハ) 二式大艇 八〇〇哩
- (ニ) 二式艦偵 三五〇哩
- (ホ) 紫 電 二〇〇哩
- (ヘ) 百式司偵 三五〇哩

(ト) 偵察機ガ視認後ノ報告法

- (一) 第一報 敵ノ種類、位置、時刻
- (二) 第二報以後

(31) (30)

艦種隻數、隊形、針路、速力、天候、視界、警戒幕ノ狀況等ヲ逐次捕捉ス

(三) 夜間ハ敵ノ上空附近ニ吊光彈ヲ投下シ又ハ長波ヲ輻射シ味方兵力ノ誘導ヲ行フコトアリ

一〇 開戦前ノ情報

職務上關係ナカリシヲ以テ承知セズ

一一 全般

(イ) 戰爭期間日本海軍情報機關ハ永年ニ百リ公表情報ヲ統計綜合セル資料ニ基キ有効ナル作業ヲ繼續シ戰爭遂行ニ資シタリ

但シ聯合國及第三國ニ秘密機關ヲ有セザリシ關係上眞ニ偉大ナル業績ヲ擧ゲルコトハ不可能ナリキ

偵察等作戰部隊ノ情報ハ偵察力不振ニ依リ極メテ不備ニシテ作戰實施上屢重大ナル支障ヲ生ゼシメタリ

(四) 日本海軍情報ノ最能率のナリシ時機トシテハ特ニ指摘シ得ザルモ戦
争ノ前期ハ偵察力充實シアリタル關係上比較的ニ良カリキ
(ハ) 米軍情報機關ノ活動ハ極メテ積極的ニシテ能率優秀ナルコトニハ常
ニ驚嘆シ居タリ

(終)

授書用

N. D. NO. 423 (11-20)

昭和二十年十一月二十日
20 November 1945

一九四五

戦勢調査團「カキチス」少佐ヨリノ質問ニ對スル回答
RESTRICTED

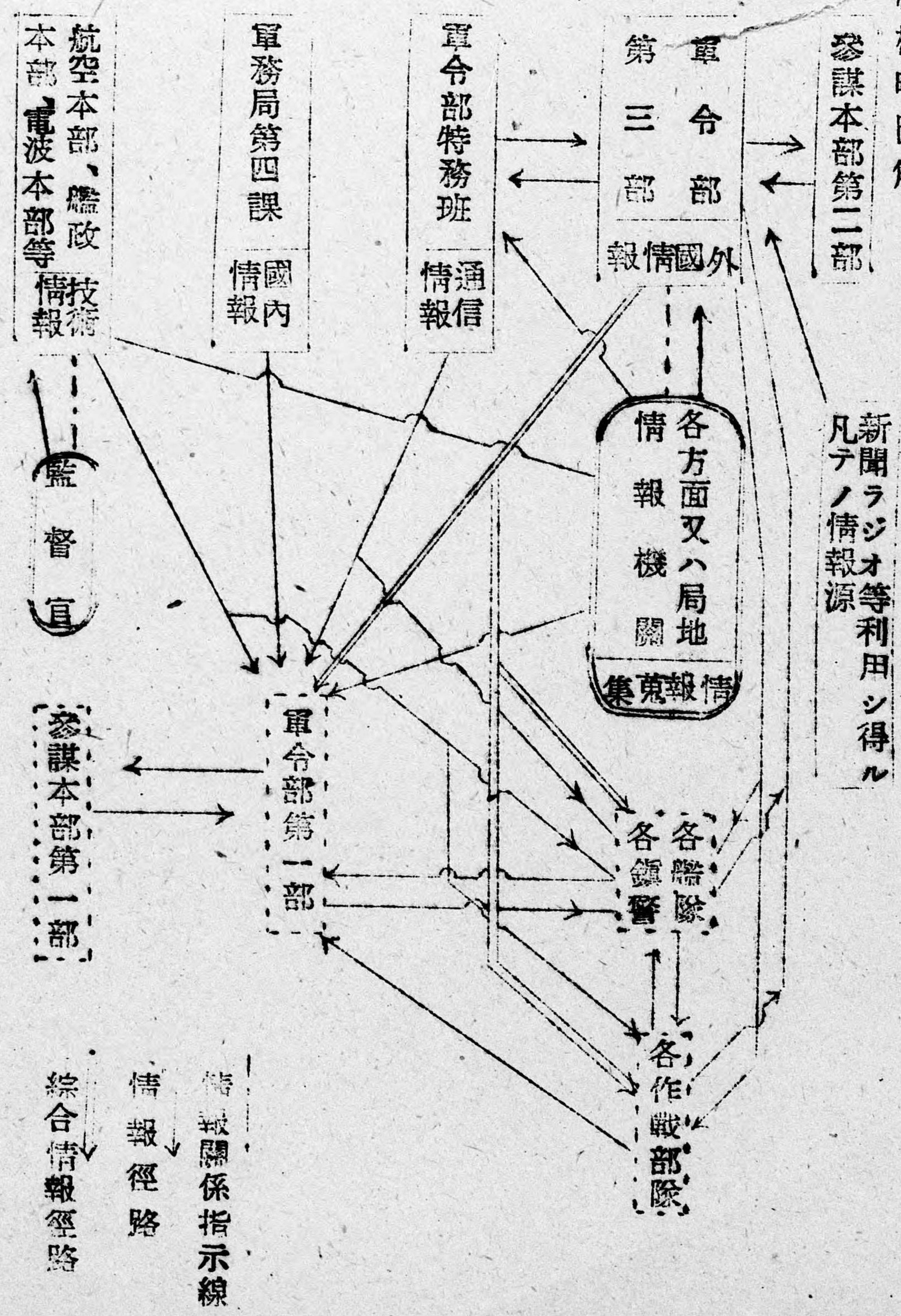
Answers with reference to the Memorandum
from Lt Comdr. T. M. Curtis USNR, dated 6 November '45

海軍大佐 大前敏一

F. OMAE, Captain USN.
War Records Institution.

一編 組

(1) 組織概略圖解



(註) 軍司令部第三部ノ組織ハ省略ス

- (2) 陸軍情報 (航空關係ヲ含ム) 相當利用セルモ入手迄ノ費消時大ニシテ價值ヲ減却セル場合多シ
- 陸軍作戰部隊ヨリノ情報ハ海軍ニ關係アルモノハ全部送付シ來ルヲ常トセリ
- 政府機關情報ハ作戰ニ利用セラレタルコトナシ
- 最利用價值大ナリシハ海軍航空部隊ノ作戰情報ナリ
- (以上ハ作戰ニ利用セル程度ヲ記述セルニ止リアリ)
- (3) 情報綜合ハ第三部ニ於テ實施セルヲ以テ詳細知悉セズ
- (4) 承知セズ
- (5) 各主要艦隊ニハ情報參謀 (中少佐級、通常通信參謀之ヲ兼務) ヲ配シ通信情報班 (少佐、大尉ヲ長トシ通常豫備士官約二名、下士官數名) ヲ置カレアリタリ、艦隊以下ニハ特別ノ配員ナキヲ通例トス

(6) 基地航空艦隊ハ各主要艦隊ト略同様ナリ

基地航空艦隊以下ニハ若干ノ情報班員アリタル外特別ニ配員ナシ

ニ採用竝ニ教育

- (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) 承知セズ

三 作 戦

(1) 情報參謀ハ情報ノ整理綜合ヲ行ヒ情況判斷資料ヲ整備ス

各艦情報士官(通例艦長ノ命ニ依リ通信長ガ情報士官ヲ兼ヌ)概ネ右ニ準ズル任務ヲ遂行スルモ通信力等ノ點ヨリ程度劣ルコト勿論ナリ

飛行機(隊)發着時ノ情況説明及情況聽取ハ航空參謀又ハ飛行長之ニ當ルヲ例トス、但シ情報參謀又ハ情報士官ト緊密ニ連絡シ實施ス

(2) 情報源及之ガ重要度竝ニ信賴度

(1) 情報入手ノ經路

(一) 作戰部隊ノ索敵偵察及作戰部隊ニテ蒐集スル情報

(二) 中央情報部ノ直接蒐集スル情報

(三) 在外武官ヨリノ報告

(四) 通信情報

以上各種情報ハ電令部第三部ニ於テ整理綜合ス

(二) 情報入手法ノ種別

(一) 既往ノ事實ノ統計的調査

(二) 世界各地ノ公共放送ノ調査

(三) 敵艦船航空機又ハ戦死者等ヨリノ押收文書

(四) 俘虜ノ陳述

(五) 陸軍其ノ他關係各部ヨリノ入手資料

(六) 通信情報

(1) 統計的調査ニ依ル通信量ノ變化

(2) 暗號及符字ノ習性竝ニ變化

(9) 電波輻射狀況竝ニ方位測定

イ) 情報ノ價值判定

綜合情報ハ概ネ確實ト斷ジ得タルモ個々ノ情報ニ關シテ適確ニ之ガ査覈ヲ必要トス、重要視ノ順序左ノ如シ

(一) 押收文書

(二) 俘虜ノ陳述綜合 (單獨俘虜ノ陳述内容ハ別途確認ノ要アリ)

(三) 通信情報

(四) 公共放送竝ニ在外武官報ハ眞偽明確ナラザルコト多ク綜合判斷ノ要アリ

(五) 作戰部隊ノ戰果報告ハ一九四二年中期以後過大化シ眞相判斷ニ苦慮セリ

小官ハ艦船攻撃ノ場合 目標、使用彈量、攻撃狀況、確認者ノ信賴度等ヲ考慮シ概ネ一〇機型一段遞下ヲ規準トシ、航空機攻撃ノ場合ハ擊墜一〇機以内ト一〇機一五〇機以上ト判斷セルモ尙不充分ナリキ

陸軍ヨリノ情報ハ一般ニ誇大ニシテ特ニ戰果報告ハ殆ド信ヲ措キ難ク全般的ニ價值判斷ヲ周密ニ行ハザレバ意外ノ錯誤ノ因タルベシ

(3) 情報處理

(一) 暗號繙譯後内容重大ナルモノハ淨書スルコトナク之ヲ關係參謀以上ニ速報ス

(二) 一般情報ハ淨書後關係者ニ回覽ス、所學ニ應ジ關係情報ヲ添付ス
(三) 情報中處置ヲ必要トスルモノハ主務參謀ニ於テ處置案 (電報) ヲ附シ參謀長、長官ノ査閱ヲ受ク

(四) 回覽竝ニ處置済情報ハ情報參謀又ハ情報士官之ヲ整理保管ス
(五) 適當ナル期間又ハ内容ニ應ジ綜合情報ヲ作製スルヲ例トス

(4) 情報ノ弘布

情報ノ弘布ハ全般的ニハ軍令部第三部、各艦船部隊ニ對シテハ各當該上級司令部ニ於テ擔任ス

通信情報ニ關シテハ特務班ニ於テ弘布ヲ擔任ス、
重要作戰時機等ニ於テ處置ト關聯ヲ有スル情報ハ軍司令部第一部ニテ
電報スルコトアリ、
重要情報ハ弘布前軍司令部第一部、第三部相互協議スルヲ例トスルモ
急ヲ要スルモノハ爾後通報スルニ止ムルコトアリ
情報機關ニ對スル情報弘布ニ關シテハ承知セズ

(5) 情況判斷

イ) 兵力

既往ノ事實ノ統計的調査ヲ基礎トシ之ニ各種情報ヲ加味シ損害喪
失修理完了等ヲ推定シテ判斷ス

通信情報ハ損害、喪失、修理完了等ニ關シ有力ナル資料ヲ提供ス
尙陸戰兵力量ニ關シテハBAMSノ統計的調査ハ有効ナリ

ロ) 米側損害

各攻撃部隊ノ報告ヲ嚴密ニ査定シ損害ヲ推定シ他ノ凡ユル對照

料ト比較研究シ判斷ス

ハ) 米側ノ企圖

米側ノ戰爭指導方針ハ公表資料ノ連續調査ニ依リ概不明瞭ナルヲ
以テ之ニ基キ軍ノ企圖ノ大綱ヲ推定シ世界情勢、米側作戰準備、
戰勢進展情況、天象氣象ノ影響等ヲ勘考シ且米國軍指揮官ノ性格
作戰前ノ恒例的作戰會議ノ顔觸、時期、米國要人ノ言動等ヲモ加
味シ判斷ス

尙米側作戰部隊ノ準備的行動例ハ潜水艦ノ出現狀況、飛行機ノ
偵察狀況、諜報員潛入狀況等ニ依リ逐次作戰目標ヲ明確ニシ又作
戰時機ハ兵力準備(BAMS)狀況ハ有力ナル資料タリ故ニ其ノ
集中狀況ニ依リ概不明瞭シ得タリ

以上戰略判斷ニ基キ適時戰術偵察ヲ實施又ハ強化シ常ニ通信情報
ニ注意シツツ精密判斷ヲ行ヘリ

(6) 情報獲得方法

(1) 俘虜ヨリノ情報入手 承知セズ

(2) 鹵獲文書

中央ニ於テ調査シ主要事項ハ速報シ爾後細密検討ノ上情報トシテ頒布ス
其ノ事實アルヲ知ラズ

(3) 土民ノ利用

(7) 獨國情報ノ利用

技術情報ハ相當有効ニ活用セラレタリト聞クモ詳細承知セズ

航空情報中ニモ有用ナルモノアリタルガ如シ

其ノ他ノ情報ハ我ヲ益セルモノアリシヲ聞カズ

(8) 重要裝備ニシテ當面ノ作戰竝ニ戰闘實施上必要ナルモノハ當該部隊

ニ於テ關係各部ニ報告通報シ且中央ヨリノ當該物件處理ニ關スル指

令ニ基キ移送又ハ現地専門家調査ヲ行フヲ例トス

其ノ結果中央擔任部局ニ於テ報告ヲ作成シ所要ノ部隊官衙作業廳等

ニ對シ周知ノ方途ヲ執ル

(9) 米側郵便ヨリ資料ヲ入手セル例ヲ知ラズ

撃墜機ヨリノ書信日記ヲ入手セル例ハ知ラザルモ公文書ヲ相當鹵獲セリ

(10) 承知セズ

(11) 判斷資料ハ現存セズ

一九四五年六月一日ノ情況判斷ハ「カーチス」少佐ニ管輿セリ

四 「ターゲット・プラクティス」

(1) (2) (3) 承知セズ

但シ模型ニ對シ攻撃ヲ演練セル例トシテ布哇及「マリアナ」ノミハ仄聞セリ

兵艦隊ニ於ケル情報業務

(1) 大型空母

(1) 地上攻撃ノ場合ハ事前撮影ノ航空寫眞ニ基キ所要ノ指示ヲ行フ豫メ作成セル地圖ニ依ル

戰艦及商船攻撃ハ偵察報告ニ依リ陣形ヲ承知シ陣内配列艦船「ター」ハ米側公刊資料ヨリ入手セルモノノ綜合推定ニ依ル

情報源毎ノ情報ノ質量竝ニ價值ニ關シテハ承知セズ

(2) 航空參謀又ハ飛行長

(3) 同 右

(4) 各搭乗員ノ報告ヲ檢討シ符合セザル點實情ニ合セザル點等ヲ

ニシテ航空參謀飛行長ハ價值判定ヲ行ヒ其ノ主要點ヲ關係各部ニシテ情報トシテ報告通報ス

(5) 定型ナシ

(6) 承知セズ

(1) 情報士官ガ業務トシテ情報ノ整理、記錄ノ作成等ヲ行フ

極メテ有要ナルモ資格、訓練等ニ關シテハ承知セズ

(2) 小型空母

大型空母ト差異ナシ

(3) 戰艦、巡洋艦、驅逐艦

(1) 各種種共情報士官業務ニテ置カレ母艦同様ノ任務ヲ行フモ資格線等ハ承地セズ

(2) 左記情報源

(一) 當面作戰目的 上級司令部ノ作戰命令ニ明示

(二) 長期計畫

戰艦、巡洋艦、驅逐艦共大本營命令聯合艦隊令ニ指摘サレアル以外ノ情報ハ入手シアラズ

(3) 承知セズ

(4) 戰艦、巡洋艦、驅逐艦ニ乘附セル通信課報班ニ付人員（士官及下官兵）ノ數及教育竝ニ情報源、情報ノ量及信頼度、情報傳達法

(1) 編制

一般艦船ニハ通信謀報班ハ配員セラレ非ズ（要員不足ノ爲）
情報整理班ニ傳達ハ主トシテ通信長之ニ當ルヲ例トス、之等任務
遂行ノ爲ニハ特別ノ配員ヲ置カズ

(2) 教育

高等科學生教程ニ於ケル教育ノ外特別ノ教育ヲ行ハズ

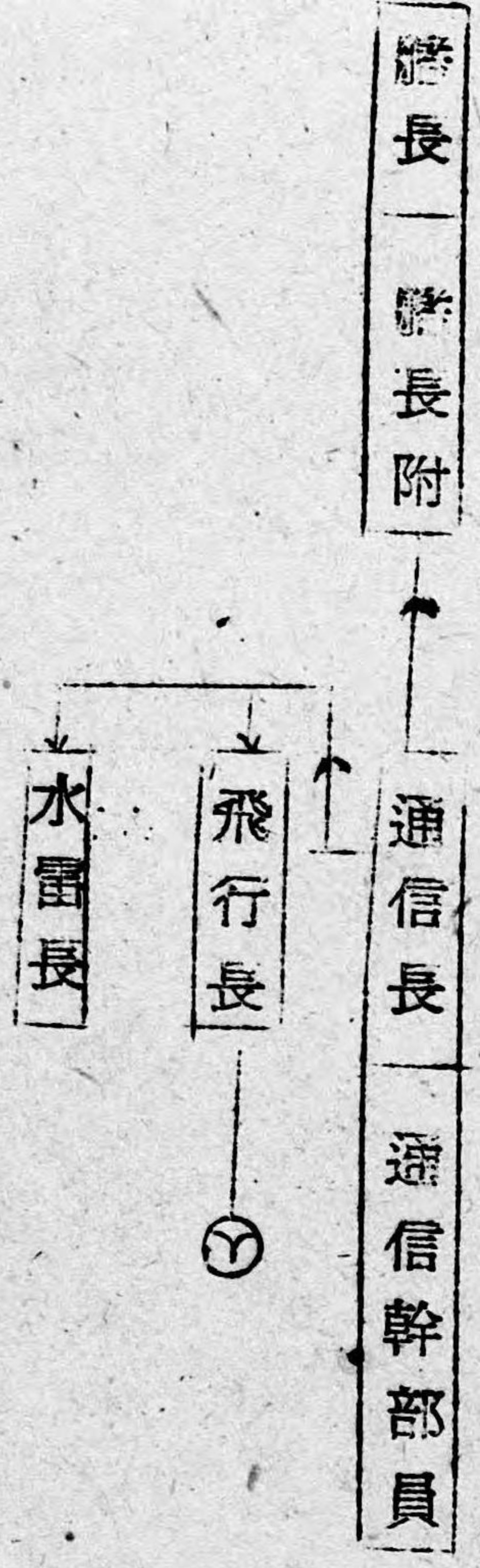
(3) 情報源

通信謀報 特務班及各通信隊ノ提供スル情報

其他ノ情報 關係作戰部隊ノ戰鬥報告班ニ作戰情報

(2) 情報ノ量ニ關シテハ正確ナル資料ナシ

(3) 傳達法



(5) 艦隊、巡洋艦、驅逐艦ノ職位測定班ニ付人員（士官及下士官兵）ノ
數及教育並ニ信頼度

(1) 編成

航海長 航海士

職位測定補助員

職位測定補助員ハ定員トシテハ定メラレ非ズ、通常左ノ人員ヲ以テ編成ス

下士官兵（高信） 二

（高操） 一 （航跡員ヲ以テ充當ス）

（無章） 一

(2) 教育

職位測定補助員ノ教育

(1) 教育期間

航海學校高等科練習生（信號）ノ全員ニ對シ約三〇時間及乘降

實習一回ヲ實施ス

(2) 教育項目

天測作業ヲ主トシテ測角及計算

(イ) 艦位測定補助員ノ任務

(一) 航海長ノ實施スル天測ノ計算ノ補助ヲ主任務トシ狀況ニ依リ天測ヲ實施ス

(二) 航跡儀ニ依リ推定位置ノ算定ヲ補助ス

六戰隊、艦隊（航空艦隊、方面艦隊）以上ノ各司令部ニ於ケル情報任務情報擔當者、人員（事務並ニ兼務別）

(1) 情報任務情報擔當者

聯合艦隊、方面艦隊、航空艦隊司令部

情報參謀（通信參謀ノ兼務スルモノアリ）

其ノ他ノ艦隊及戰隊司令部

通信參謀（兼務）

(2) 情報班ノ人員數

所屬	情報參謀	豫備士官	特務士官	下士官兵
聯合艦隊司令部	一（專）	三	一	三五
南西方面艦隊司令部	一（兼）	一五	一五	二七〇

所屬	情報參謀	豫備士官	特務士官	下士官兵
中部太平洋方面艦隊司令部	一（兼）	一〇	一〇	二五〇
南東方面艦隊司令部	一（兼）	一〇	三	一七〇
支那方面艦隊司令部	一（兼）	一〇	五	一五〇
北東方面艦隊司令部	一（兼）	八	三	一〇〇
航空艦隊司令部	一（專）	三	二	三五
其ノ他ノ艦隊司令部	一（兼）	二	一	一五
航空艦隊司令部	一（兼）	二	一	一五
海上護衛隊司令部	一（兼）		一	一五

本表ノ數ハ標準ノ定員ニシテ作戰ノ狀況ニ應ジ其ノ都度臨時ニ増減セラレタリ

(イ) 情報班員ノ情報教育

(1) 士官

海軍通信學校高等科學生教程ノ外特別ノ教育ヲ行ハズ專門的知識ハ主トシテ資料ニ依ル自學ニ依レリ

(一) 豫備士官

基礎教育 四ヶ月 於海軍通信學校
下士官兵

練習生別	教育期間	教育場所
高等科	六ヶ月	須賀海軍通信學校
普通科	六ヶ月	

(二) 右各部ノ情報源及其ノ重要度並ニ信頼度

(一) 情報源

(1) 特務班及各通信隊ノ通信諜報資料

(2) 各部ニ於ケル傍受資料(参考トセル程度)

(二) 重要度

索敵能力劣化ノ後ハ當面作戰情報ノ外最モ重要ナル情報資料トシテ重視セラレタリ

(三) 信頼度

情報確認ノ手段ナキ爲確度ニ對スル正確ナル評價不能ナリシモ概ネ六〇%程度ノ信頼ヲ置キタリ

(四) 當面作戰情報並ニ戰鬪報告ノ情報傳達法

(一) 東京通信隊ハ全作戰海域ノ重要作戰情報並ニ戰鬪報告ヲ全重ヘ地方ノ各通信隊ハ當該方面ノ作戰情報並ニ戰鬪報告ヲ當該方面ノ部隊ヘノ放送ヲ擔當セリ

(二) 各司令部ハ其ノ麾下部隊ヘ對シ綜合情報ノ傳達ヲ擔當セリ

七米側對空兵器、對空方式及對空砲配置ニ關シ

(1) 航空寫眞ニ依ルモノヲ指示シ尙砲火ノ密度威力等ニ關スル前例ヲ承知セシメタリ

(2) 寫眞偵察並ニ各同ノ偵察、攻撃時等ノ記録ニ依ル

(砲ノ射程ニ依リ各進入路高度別ノ密度ヲ計算的ニ算出セルコトハナカリキ)

(3) 特ニ本目的ノタメ人員ヲ配置セルコトナシ

(二) 資料ナシ

ハ有 効 度

(1)

(一) 聯合國及米國航空兵力ニ關シ

生産機數及米國公表太平洋正面充當率ニ依リ總兵力ノ粹ヲ知リ次ニ各航空基地收容力ヲ偵察又ハ推定ニ依リ判斷シ基地航空兵力ヲ又母艦數並ニ各艦搭載數ニ依リ母艦航空兵力ヲ知得セリ
作戰ニ當リ大ナル誤判斷セルコトナシ

(例) 一九四五年五月ニ於ケル判断

地 域	中 部 太 平 洋										南 西 諸 島	比 島	南 西 諸 島	南 太 平 洋					印 緬 方 面	支 米 航 空 部 隊	那 米 支 混 合 部 隊	印 支 間 輸 送 機	艦 隊 航 空 兵 力	合 計	
	ア ラ ス カ	ア リ ウ シ ャ ン	エ リ ス キ ル パ イ ト	サ モ ア 方 面	マ ー シ ャ ル	マ リ ア ナ	ペ リ リ ュ シ	ウ ル シ ュ	硫 黄 島	布 哇				輸 送 機	東 部 ニ ウ ギ ニ ヤ	西 部 ニ ウ ギ ニ ヤ	ニ ン シ ャ ン	ソ ロ モ ン 群 島							ニ ウ カ レ ド ニ ヤ
五月末	400	300	300	300	200	850	250	275	800	200	400	750	250	200	300	300	100	100	100	1000	700	150	400	3500	15515
六月末	400	300	150	200	200	1000	250	500	800	200	300	600	250	200	300	300	100	100	100	1000	700	150	400	3600	15150
七月末	400	300	150	200	200	1000	250	500	900	200	300	600	250	200	300	300	100	100	100	1500	700	150	400	3700	16000
八月末	400	300	150	200	200	1000	250	500	1000	200	300	600	250	200	300	300	100	100	100	1000	800	150	400	3800	17850
九月末	400	300	150	200	200	1000	250	500	1000	200	300	600	250	200	300	300	100	100	100	1000	800	150	400	3800	19370

(備 考) 一 七月末頃ヨリ在歐兵力ノ一部右正面ニ出現ヲ豫想ス
 二 本土方面作戰ニ参加スベキ航空兵力推定別表ノ通

別表

日 面	マリアナ方面	硫 黄 島	南 西 諸 島	比 島 方 面
5 月 末	B-29×650 B-24× 50 PB4Y× 20 } 800 f ^c × 80 艦上機×100	B-29× 40 P-51×200 } (不時着) 275 P-61× 25 其ノ他× 10	P-47 } P-51 } ×100 艦上機×100 } 240 PV × 20 彡 × 40	(P-47 P-61) f ^c (P-51 P-61) ×900 (P-58 P-4U) f ^b B-24×450 } 1,850 PB4Y×100 PV × 50 B-25×200 A-20×100 其ノ他× 50
6 月 末	B-29×700 其ノ他同上 } 850	B-29× 50 B-24×150 } 約 500 P-51×250 B-61× 30 其ノ他× 10	P-47 } P-51 } ×250 P-61 } 艦上機×100 } 460 B-24 × 50 PV × 20 彡 × 40	f ^c ×1000 f ^b ×1100 (B-29×150 } 2,150 ヲ含ム 其ノ他×50
7 月 末	B-29×850 其他同上 } 1000	同 上	P-47 } P-51 } ×300 P-61 } 艦上機×100 } 600 B-24× 150 PV × 30 彡 × 40	20×1500 B-29×300 (ヲ含ム B-17) f ^b ×1000 (B-24増70 } 2,150 B-17 B-24) 以外同上 其ノ他× 50
8 月 末	同 上	同 上 B-24、B-29ト代替スルヤ モ知レズ	P-47 } P-51 } ×300 P-61 } 艦上機×100 } 650 B-24 ×200 PV × 30 彡 × 40	f ^c ×2000 f ^b ×2000 (B-29×400 } 4,100 ヲ含ム 其他同上 其他×100
9 月 末	同 上	同 上	P-47 } P-51 } ×400 P-61 } 艦上機×100 B-24 ×300 PV × 30 彡 × 40	f ^b ×2500 f ^b ×2000 (B-29×300 } 5,100 ヲ含ム 其ノ他同上 其ノ他×100

(二)米海軍及地上兵力ノ位置並ニ組成
 海軍兵力ハ公表資料ニ依リ新造艦船ノ情況ヲ詳ニシ之ヲ保有量ニ
 加算シ總兵力ヲ推算シ之ヨリ戰鬪報告ニ依ル戰果推定セル量ヲ減
 シ兵力ヲ算定セリ
 地上兵力ハ米側公表資料ニ依リ算定セリ
 一九四五年五月判斷セル所左ノ如ク作戰上必要ナル資料ハ概ネ充
 足セラレアリタリ

主要海上兵力

艦種	五月末	六月末	七月末	八月末
aA	53 75	64 80	70 85	74 89
A	13 26	20 27	25 28	26 28

記 事

一本表ハ四月末米國發表數字ヲ基礎トシ天
 號作戰戰果ヲ加味セルモノナリ
 分母ハ保有兵力。分子ハ對日作戰充當
 兵力)
 二沈又ハ大破艦艇ハAニ就イテハ全部大破
 aAニ就イテハ沈及大破各半數ト推定シ最

d	U	B
209 289	16 49	20 21
228 308	25 56	21 22
244 324	35 64	23 23
254 331	36 64	24 24

三 惡ノ場合ヲ考慮ス
 大破ノ艦艇ハ四月末ニ殘存ノ艦艇ハ六月末
 新月空母ヲ一ハ七月末ニ残存ノ艦艇ハ八月
 一新タラシクハ七月末ニ残存ノ艦艇ハ八月
 末ニ殘存ノ艦艇ハ七月末ニ残存ノ艦艇ハ八月
 未ニ殘存ノ艦艇ハ七月末ニ残存ノ艦艇ハ八月
 二 訓練用トシテ計上セズ
 一 訓練用トシテ計上セズ
 三 保有兵力中ニハ英ニ讓渡セルモノ及沖
 繩作戰前ノ喪失數ヲ含ミアル算アリ

地上兵力

區分	陸軍				海兵師團	合計
	步兵師團	裝甲師團	空輸師團	騎兵師團		
四月末	43 90	4 22	2 10	1 2	5 10	57 144
五月末	44 90	4 22	2 10	1 2	6 10	59 144
六月末	44 90	5 22	2 10	1 2	7 10	61 144
七月末	53 90	7 22	3 10	1 2	7 10	73 144
八月末	70 90	10 22	4 10	1 2	8 10	95 144

一 本表ハ左ノ假定ニ基キ推算ス
 (1) 五月以降毎月二管師團ヲ米本國ヨリ對日作戦ニ増派ス
 (2) 歐洲西部戰線充當兵力約六十管師團中差當リ其ノ約半量ヲ左ニ依リ對日戦ニ轉用ス

同次	第一次	第二次
歐洲出發	約一〇	約二〇
比島方面到着	五月中下旬	六月
作戦準備完成	七月末迄	八月末迄
	八月末	九月末

(註) 轉用兵力所要裝備ノ相當量以テ作戦所要重要品ハ米本國ヨリ直接比島方面ニ輸送ス
 二 各月末兵力ハ分母ハ保有兵力、分子ハ對日作戦充當豫想兵力ヲ示ス

記 事

(三) 米軍作戰能力

米國戰爭指導方針（要人ノ言說等ヨリ承知）竝ニ高級指揮官ノ性格等ヨリ推定シ得タリ。判斷ハ概ネ正確ヲ得アリタリ。

(四) 米軍ノ企圖

極力人的損耗ヲ顧慮シツツ合理的速戰速決主義ノ下ニ作戰ヲ推進シ來タリタル米軍ノ企圖ハ「ソロモン」方面作戰以來概ネ適確ニ判斷シ得タリ。

(一) 大規模ナル米軍ノ移動竝ニ上陸作戰ハ事前ニ判斷シ得タリ

右ハ米軍ノ一般企圖、兵力準備、通信情況等ヨリ推斷可能ニシテ開戰以後不意打ヲ蒙リタルハ「ガ」島上陸ヲ除キ殆ドナシ。硫黃島來攻一月頃、沖繩來攻三月頃、判斷シ準備ヲ進メ居リタルガ如キ其ノ例ナリ。

(二) 艦隊ニ對シテ軍令部第三部ニ於テ適時適切ニ情報ヲ出シ又作戰部隊相互間ニ於テモ作戰情報ノ通報適切ニ行ハレアリタリ

(三) 聯合軍竝ニ米軍技術ニ關スル情報ハ概ネ信賴スルニ足ルモノト認メ居タリ

(四) 米軍捕虜ヨリ聽取セル情報ハ有效ナルモノ相當アリタリ

六 航空寫眞竝ニ偵察

(一) 日本海軍ハ極力寫眞情報ノ利用ニ努ムルモ一般航空戦力ノ不振特ニ偵察輕視ノ戰前ノ慣習ニ患ハサレ實施之ニ伴ハザリキ

(二) 一九四三年中期頃迄ハ相當實用シ效果ヲ擧ゲタルモノ爾後ハ優秀ナル偵察員ノ不足等ニ依リ極メテ貧弱ナル情況ナリキ

(三) 偵察航空隊ニ於テ寫眞ヲ撮影現後シ其ノ寫ヲ關係各部ニ配布スルヲ例トセリ

南東方面艦隊ニ於テハ一九四三年八月頃ヨリ寫眞整理班ヲ設ケタリ

(四) 陸上各航空 一個偵察航空隊ヲ配屬ス

(五) 母艦ヨリ成ル艦隊ニハ偵察機約三〇機程度

(六) 一個偵察航空隊ニハ彩雲常用二十四機、月八機、計三十二機ノ定數ナリシモ實數ハ遙ニ下廻レ青見

(2) 偵察機數、其ノ有効度、空地間ノ情報連絡法等ニ關スル意見

(一) 偵察機數

帝國海軍ハ開戰以後相當期間洋上搜索偵察ニ一式陸上攻撃機、九七式及二式大艇、軍艦搭載水上機並ニ母艦搭載艦上攻撃機ヲ使用セシモ其ノ性能(特ニ空戰性能)貧弱ナリシ爲偵察専用ノ高性能機ノ出現ヲ促セリ

母艦搭載偵察機トシテハ二式艦上偵察機基地用偵察機トシテハ彩雲出現セシモ前者ハあ號作戦以後若干艘母艦ニ搭載使用セシモ作戰上大ナル寄與ナカリキ

彩雲ハ當初第一航空艦隊ニ配セラレ「マリヤナ」作戦ニ参加以來爾後帝國海軍偵察兵力トシテ重用セラレタル機種ナリキ

偵察兵力ニ關シテハ彩雲ノ生産少ナク「マリヤナ」作戦當時第一航空艦隊ハ彩雲數機ヲ保有シタルニ過ギズ

彩雲ノ定數概ネ充實シタルハ本年四月天號作戦當時ナリシモ其ノ

實動率極メテ不良ニシテ連日ノ作戦ニ堪ヘ得タルハ保有三十二機中概ネ八機程度ニシテ開戰ヨリ終戰迄帝國海軍ハ偵察兵力不足ニ憚ミタリ

(二) 其ノ有効度

彩雲ハ高度五千米附近ニ於テ敵機ト略同速ニシテ晝間警戒嚴重ナル敵機動部隊ニ對スル偵察機トシテハ極メテ有効ナル兵力ナリシモ幾多整備上ノ缺陷ヲ有シ實動率不良ナル難點ヲ有セリ

二式大艇、一式陸攻、紫電、百式偵偵ハ彩雲不足ノ代用トシテ使用セラレタルモ二式大艇、一式陸攻ハ性能ノ關係上電探ヲ裝備シ夜間偵察機トシテ使用セラレタルモノナリキ

紫電ハ通信力ノ不足ニ依リ百式偵偵ハ洋上航法能力ノ不足ノ爲專ラ近距離ノ洋上偵察乃至陸上基地ノ偵察ニ使用セラレタルモ有効度大ナラズ

(三) 空地間ノ情報連絡法

偵察機ハ所要ニ應ジ出發基地及中樞司令部基地ト隨時無線通信ニ依リ交信ヲ行ヒ所要ノ情報ヲ交換ス

四各戰期ニ於ケル索敵體

作戰ノ要求ニ依リ異ナルモ其ノ標準機ネ左ノ如シ

- (イ) 彩 雲 五五〇哩
- (ロ) 一式陸攻 六五〇哩
- (ハ) 二式大艇 八〇〇哩
- (ニ) 二式艦偵 三五〇哩
- (ホ) 紫 電 二〇〇哩
- (ヘ) 百式司偵 三五〇哩

(ト) 偵察機ガ視認後ノ報告法

- (一) 第一報 敵ノ種類、位置、時刻
- (二) 第二報以後

晴種隻數、隊形、針路、速度、天候、視界、警戒幕ノ狀況等ヲ逐次捕捉ス

三夜間ハ敵ノ上空附近ニ吊光彈ヲ投下シ又ハ長波ヲ輻射シ味方兵力ノ誘導ヲ行フコトアリ

一〇 開戰前ノ情報

職務上關係ナカリシヲ以テ承知セズ

一一 全般

(イ) 戰爭期間日本海軍情報機關ハ永年ニ百リ公表情報ヲ統計綜合セル資料ニ基キ有効ナル作業ヲ繼續シ戰爭遂行ニ資シタリ

但シ聯合國及第三國ニ秘密機關ヲ有セザリシ關係上眞ニ偉大ナル業跡ヲ舉ゲルコトハ不可能ナリキ

偵察等作戰部隊ノ情報ハ偵察力不振ニ依リ極メテ不備ニシテ作戰實施上屢重大ナル支障ヲ生ゼシメタリ

(ロ) 日本海軍情報ノ最能率のナリシ時機トシテハ特ニ指摘シ得ザルモ戦
争ノ前期ハ偵察力充實シアリタル關係上比較的ニ良カリキ
(ハ) 米軍情報機關ノ活動ハ極メテ積極的ニシテ能率優秀ナルコトニハ常
ニ驚嘆シ居タリ

(終)

軍機

機密

20

昭和二十年六月一日
軍司令部第一部

本誌況判断ハ四月二十九日起軍情

五ノニシテ六月改稱ハルベシ

情 況 判 断

一 天號作戰推移

天號作戰ハ海陸軍航空兵力ノ累次ニ亘ル大規模攻撃ニ依リ敵海上兵力ニ多大ノ損耗ヲ與ヘ地上部隊ノ敢闘ト相俟テ敵ニ多大ノ出血ヲ強要シ敵ノ豫定計畫ニ大ナル蹉跌ヲ生ゼシメ尠クモ進攻時機ヲ一乃至二月遅延セシメタルノミナラズ機動部隊ノ蒙リタル損害ハ其ノ飛躍的進攻ヲ不可能ナラシメタリ

然レドモ沖縄本島方面地上作戰ハ漸次悪化ノ傾向ヲ辿リ配備兵力ノ寡少ト相俟テ遂ニ沖縄本島ノ大半ヲ敵手ニ委スルノ已ムナキニ至リ我地上部隊ノ組織的作戰モ尠クハ六月中旬以後之ヲ豫期スルハ至難ト判断セラル

他面沖縄周邊ノ狀況ハ尙我有利ナル航空作戰ヲ以テ敵海上兵力ニ痛撃ヲ加ヘ得ベキ好機存スルヲ以テ天號航空作戰ハ益強化續行シ敵ノ

次期進攻ヲ益遷延セシムルコト固ヨリニシテ敵ガ既ニ北、中 \square 及伊江島 \square ノ使用ヲ開始シ尙沖繩島ニ尠クモ五ヶ所ノ新飛行場ヲ造成シ基地航空兵力ノ大增勢ヲ企圖シアル情況アリト雖モ六月下旬初頭頃迄ハ概ネ從來通ノ作戦實施ハ可能ナリト認ム

二天號作戦戦果判定（自三月十八日、至五月二十八日）

艦種	沈	没	大破	中小破
A	一〇一	一	一	六
B.A	一三一	一四	(沈又ハ大破)	三
B	二		三	一四
C	一八		一一	三三
d	七四		一八	一七
T	四七		二八	三〇
W 其他	二四		八	二
不詳	五五		四七	一〇六
計	三五八	一三六〇	(沈又ハ大破)	二一一

三、對日作戰充當兵力

(1) 主要海上兵力

艦種	A	a A	B	C	d
五月末	13 / 26	58 / 75	20 / 21	16 / 49	209 / 289
六月末	20 / 27	64 / 80	21 / 22	25 / 56	228 / 308
七月末	25 / 28	70 / 85	23 / 23	35 / 64	244 / 324
八月末	26 / 28	74 / 89	24 / 24	36 / 64	254 / 331

記 事

一、本表ハ四月末米國發表數字ヲ基礎トシ
 天號作戰戰果ヲ加味セルモノナリ
 (分母ハ保有兵力、分子ハ對日作戰充
 當兵力)

二、沈又ハ大破艦艇ハAニ就イテハ全部大
 破、aAニ就イテハ沈及大破各半數ト推
 定シ最悪ノ場合ヲ考慮ス

三、大破艦艇ハ二月乃至三月ニテ約半數、
 三月乃至四月ニテ殘半數作戰參加可能
 トス

四、新空母「アンテエタム」ハ六月末、
 「タラワ」ハ七月末、「ボクサー」ハ八月
 末作戰參加可能トス、又「サラトガ」
 「レンジヤー」ハ訓練用トシ計上セズ

五、保有兵力中ニハ英ニ讓渡セルモノ及
 沖繩作戰前ノ喪失數ヲ含ミアル算アリ

日本海軍の米軍力判断 (一九四五年五月五号ノモノヲ示ス。其他ハ資料トシテ)

(2) 對日作戰正面第一線航空兵力

地 域	中 部 太 平 洋										南 比 島	南 西 諸 島	南 太 平 洋				印 緬 方 面	支 那		印 支 間 輸 送 機	艦 隊 航 空 兵 力	合 計
	輸 送 機	布 哇	硫 黃 島	ペリリユー ウルシー	マリアナ	マーシャル	エリス、ギルバート サモア方面	アリウシヤン	アラスカ	北 方			濠 洲	東部ニウギニヤ	西部ニウギニヤ	ソロモン群島		ニウカレドニヤ エスピリットサンド	フイジー			
五月末	200	800	275	250	850	200	300	300	400	1850	240	400	250	200	300	100	100	700	150	400	3500	13515
六月末	200	800	500	250	1000	200	150	300	400	1150	500	600	200	300	100	100	100	700	150	400	3600	14150
七月末	200	900	500	250	1000	200	150	300	400	1100	600	600	200	300	100	100	100	700	150	400	3700	16000
八月末	200	1100	500	250	1000	200	150	300	400	1100	600	600	200	300	100	100	100	700	150	400	3800	17850
九月末	200	1500	500	250	1000	200	150	300	400	1100	700	600	200	300	100	100	100	700	150	400	3800	19370

(備考) 一 七月末頃ヨリ在歐兵力ノ一部右正面ニ出現ヲ豫想ス

ニ本土方面作戰ニ参加スベキ航空兵力推定別表ノ通

一列表

期日	方面	マリアナ方面	硫黄島	南西諸島	比島方面
5月末		B-29 × 650 B-24 × 50 PB4Y × 20 } 800 f ^c × 80 艦上機 × 100	B-29 × 40(不時着) B-51 × 200 P-61 × 25 } 275 其ノ他 × 10	P-47 } P-51 } × 100 艦上機 × 100 } 240 PV × 20 ▽ × 40	f ^c { P-47 P-61 } { P-51 P-61 } × 900 f ^b B-24 × 450 } 1,850 PB4Y × 100 PV × 50 B-25 × 200 A-20 × 100 其ノ他 × 50
6月末		B-29 × 700 } 850 其ノ他 同上	B-29 × 50 } B-24 × 150 } 約 P-51 × 250 } 500 P-61 × 30 其ノ他 × 10	P-47 } P-51 } × 250 P-61 } 艦上機 × 100 } 460 B-24 × 50 PV × 20 ▽ × 40	f ^c × 1,000 f ^b × 1,100 { B-29 × 150 } { ヲ含ム } 2,150 其ノ他 × 50
7月末		B-29 × 850 } 1,000 其ノ他 同上	同 上	P-47 } P-51 } × 300 P-61 } 艦上機 × 100 } 600 B-24 × 150 PV × 30 ▽ × 40	f ^c × 1,500 f ^b × 1,600 { B-29 × 300 } { ヲ含ム B-17 } { B-24増70 } 2,150 { B-17 B-24 } 以外同上 其ノ他 × 50
8月末		B-29 × 850 } 1,000 其ノ他 同上	同 上 B-24ハB-29ト代替ス ルヤモ知レズ	P-47 } P-51 } × 300 P-61 } 艦上機 × 100 } 650 B-24 × 200 PV × 30 ▽ × 40	f ^c × 2,000 f ^b × 2,000 { B-29 × 400 } { ヲ含ム } 4,100 { 其ノ他 同上 } 其ノ他 × 100
9月末		同 上	同 上	P-47 } P-51 } × 400 P-61 } 艦上機 × 100 } 870 B-24 × 300 PV × 30 ▽ × 40	f ^c × 2,500 f ^b × 2,000 { B-29 × 500 } { ヲ含ム } 5,100 { 其ノ他 同上 } 其ノ他 × 100

3,500

7,000

地上兵力

記 事	合 計	海 兵 師 團	軍				陸 兵 師 團	區 分	
			計	騎 兵 師 團	空 輸 師 團	裝 甲 師 團			
<p>一 本表ハ左ノ假定ニ基キ推算ス (1) 五月以降毎月二箇師團ヲ米本國ヨリ對日作戰ニ増派ス (2) 歐洲西部戰線充當兵力約六十箇師團中差當リ其ノ約半量ヲ左ニ依リ對日戰ニ轉用ス</p> <p>（註）轉用兵力所要裝備ノ相當量並ニ作戰所要軍需品ハ米本國ヨリ直接比島方面ニ輸送ス 二 各月末兵力ノ分母ハ保有兵力、分子ハ對日作戰充當豫想兵力ヲ示ス</p>	57	5	50	1	2	4	43	四 月 末	
	144	10	134	2	10	22	90		
	59	6	51	1	2	4	44	五 月 末	
	144	10	134	2	10	22	90		
	61	7	52	1	2	5	44	六 月 末	
	144	10	134	2	10	22	90		
	73	7	64	1	3	7	53	七 月 末	
	144	10	134	2	10	22	90		
	95	8	85	1	4	10	70	八 月 末	
	144	10	134	2	10	22	90		

回次	兵力	歐洲出發	比島方面到着	作戰準備完成
第一次	約一〇	五月中、下旬	七月末迄	八月末
第二次	約二〇	六月	八月末迄	九月末

50

四敵ノ企圖判斷

歐戰完遂ノ目的ヲ達成セル主敵米ハ急速對日終戰ヲ焦慮シアリ可及的全力ヲ對日戰ニ集中指向シ出血量ノ極限ヲ圖リツツ我ノ準備未ダ整ハザルニ乘ジ迂路ヲ經ルコトナク直路我本土要域侵寇ヲ企圖スベシ

即チ假令若干無理押スルモ速戰速決ヲ計ルコト自体ガ綜合出血量ヲ小ナラシムル方策ト認ムベク且沖繩作戰ノ經過ヲ深ク勘考シテ作戰成功ノ見透付ク限り成ルベク速ニ先ヅ本土南西部要域ヲ奪取シ次イテ戰爭ヲ終末ニ導キ得ベキ致命要域（東京ヲ中心トスル關東方面）ニ對シ終極ノ大規模作戰ヲ展開推進シ來ル算大ナルベシ
本作戰實施ニ當リテハ英海空兵力ノ協力ヲ豫期スル要アリ
尙夏秋ノ候ニ於テ「ソ」ノ對日戰加入ノ算増大シツツアルハ注意ヲ要ス

右ニ基キ敵ノ執ルベキ企圖概ネ次ノ如シ

(イ) 沖繩作戰ノ概成ヲ促進シ有力ナル海空基地特ニ多數ノ航空基地ヲ急速整備シテ我本土進攻準備態勢ヲ整フ

(ロ) 硫黃島「マリアナ」方面航空兵力ノ躍進的強化ヲ計リ前項沖繩方面航空兵力ト相俟テ重要施設、交通要點、都市等ニ對スル爆撃ヲ以テ我本土ノ政戰關係機關ノ徹底的破壊並ニ民意ノ軟化ヲ計リ此ノ間我航空兵力ノ擊滅ヲ企圖スベシ

此ノ間潜水艦ト相俟テ日滿支海上交通ノ分斷ヲ強化スルト共ニ機雷ノ使用、銃爆撃ノ徹底化ニ依リ北部日本及日本海ノ一部以外ノ海上交通ノ麻痺ヲ策スベシ

此ノ際敵航空兵力ハ歐戰終結ニ依リ七月末以降大型機三〇〇〇程度轉用増勢スベキコトヲ打算シ置タラ要ス

(ハ) 沖繩方面航空收容能力増大、艦船泊地獲得並ニ小型機攻撃圏推進等ノ爲沖繩作戰ニ餘裕アラバ跡ニ徳ノ島、喜界島、奄美大島等ニ對シ滲透作戰ヲ行フ算大ニシテ其ノ時機ハ六月中旬頃ト判斷ス

(二) 沖繩方面、「マリアナ」方面、硫黃島航空基地群完成シ之ガ利用ニ依ル本格的本土攻撃特ニ航空撃滅戦竝ニ交通要點ニ對スル攻撃奏效シ且敵機動部隊ノ所要兵力再整備セバ航空兵力ノ主力ハ次期攻略ニ對スル戰術爆撃ニ移行スベシ右時機ハ沖繩方面基地整備情況等トモ勘案シ六月中旬以降之ヲ豫期スルノ要アリ

(ホ) 敵ガ先ヅ南九州、四國南岸地區ニ來攻スルコトナク一舉關東地區ニ來攻スルノ算ハ天號作戰戰果ニ鑑ミ極メテ尠ナリト認ム而シテ敵ノ船團集積現狀等ニ鑑ミ本格的本土上陸作戰準備ハ僅ニ其ノ緒ニ着キタル程度ニシテ今後ノ情勢推移ヲ嚴重監視ノ要アルモ現狀ニ於テハ九州、四國方面來攻ハ七月上旬以降之ヲ豫期スルノ要アリ

(ハ) 關東方面來攻ハ敵兵力整備ノ面ヨリ九月上旬以降之ヲ豫期スルノ要アリ

(ト) 敵ノ濟州島方面來攻ハ大陸交通完全遮斷ヲ目途トシ六月下旬以降

○ 12月1日見解

○ 内地進出ト

生起ノ算ナシトセズ然レドモ沖繩方面基地航空兵力増勢ヲ見バ必
シモ本作戦ニ依ルコトナク遮断效果ヲ擧ゲ得ベキヲ以テ機動部隊
ノ損耗既ニ大ニシテ九州方面來攻困難ナルカ或ハ對蘇顧慮等ノ必
要ナキ限り之ヲ執ルノ算必シモ大ナラズト判断ス

(5) 北中支方面作戰ハ主トシテ老ナル歐洲ヨリノ轉用航空兵力ヲ收
容スベキ我本土攻撃基地獲得ヲ目的トシテ實施スルノ算アリ

而シテ之ヲ行フ場合其ノ時機ハ六月以降成ルベク速ニ開始シ且急
速完成シ得ル如キ地區ヲ選定スベク若シ六、七月ノ候ニ之ガ徵候
ヲ認メザレバ之ヲ行ハザル算増大ノ傾向ニアリ此ノ場合ハ爾後對
本土作戰トハ獨立セル中支確保ノ政略作戰ヲ執ラントセルモノト
觀ルヲ至當トス

(6) 南支、佛印方面ニ對スル作戰

本作戦ハ英國、佛印軍等ヲ主体トシ失地回復作戰トシテ主作戰ト
ハ別個ニ併行スルノ算概ネ確實ナリ

(メ)千島、北海道方面ニ對シテハ牽制作戦程度以上ニ出ル算殆ンド
無シト認ムルモ對蘇關係特ニ蘇聯參戰ノ場合ハ米トシテハ情況
許ス限り本作戦ヲ企圖スル算大ナリ

ニ我ノ方策

(イ)沖繩島周邊敵艦船及敵航空基地ニ對スル航空作戦ヲ鞏強ニ續行
シ敵艦船ノ漸滅竝ニ増援補給遮斷ヲ計ルト共ニ基地整備竝ニ基
地航空兵力ノ増勢ヲ阻止ス

本作戦ニ於テハ航空特攻威力ノ増強ヲ以テ攻撃效果ノ徹底ヲ期
スルヲ要ス

本航空戦ニ於テハ喜界島、徳ノ島、石垣島等ノ基地ノ全幅活用
ヲ計リ得ル如ク防空威力ノ強化ヲ計リ好機戰闘機及白菊等ヲ推
進ス

尙臺灣方面ヨリスル攻撃兵力ヲ増大スル如クス

(ロ)右作戦效果ノ發揚ハ敵機動部隊ノ南西諸島海面滯留ヲ強要シ得
ル所以ニシテ機略ニ當ル攻撃ヲ以テ敵母艦群ヲ捕捉撃破ス

本作戦ト併行シ丹作戦ヲ以テ敵空母ノ漸減ニ努ム

(イ) 戦況展開不利ニシテ沖繩島敵基地航空兵力躍進的ニ増強シタル以後ハ強引ナル沖繩周邊航空戦ヲ中止シ黎明薄暮夜間ノ攻撃ヲ主トスル機略ニ富ム戦法ニ轉換ス

(ニ) 戦況有利ニ展開シ沖繩周邊敵艦船ヲ撃破シタル場合ハ機ヲ失セズ總力ヲ結集シテ航空撃滅戦ニ移轉シ之ト併行ニ沖繩方面増援作戦ヲ行ヒ得ル如ク所要ノ準備ヲ促進ス

(ホ) 天號航空作戦ニ支障ナキ限り決號作戦準備ヲ全面的ニ發動シテ之ガ完成ヲ促進シ先ヅ四國、南九州ニ戦備ノ重點ヲ置キ若シ七月下旬頃迄九州、四國ニ來攻ヲ見ザル場合ハ戦備ノ最重點ハ移動可能兵力ヲ關東地方ニ集中スル如クス
尙此ノ間對米英戦備ヲ阻害セザルニ努メツツ對蘇警戒戦備ヲ實施ス

萬難ヲ排シ防空態勢強化ヲ計リ特ニ陸海軍航空兵力防空兵力ヲ
綜合シ重點指向ニ徹スル如クス
(1) 對蘇警戒ヲ嚴ニスルモ苟クモ蘇聯ヲ挑發スル如キ行動ハ一切之
ヲ行ハズ

(終)

9 December 1945

REPORT ON JAPANESE ARMY INTELLIGENCE SUBMITTED
 3 NOVEMBER 1945 BY LT. GENERAL ARISUE, SEIZO, IJA,
 CHIEF OF G-2, ARMY GENERAL STAFF.

This report was submitted in response to a written request, dated 1 November 1945, from the G-2 Section, U. S. Strategic Bombing Survey. It is reproduced here in question and answer form.

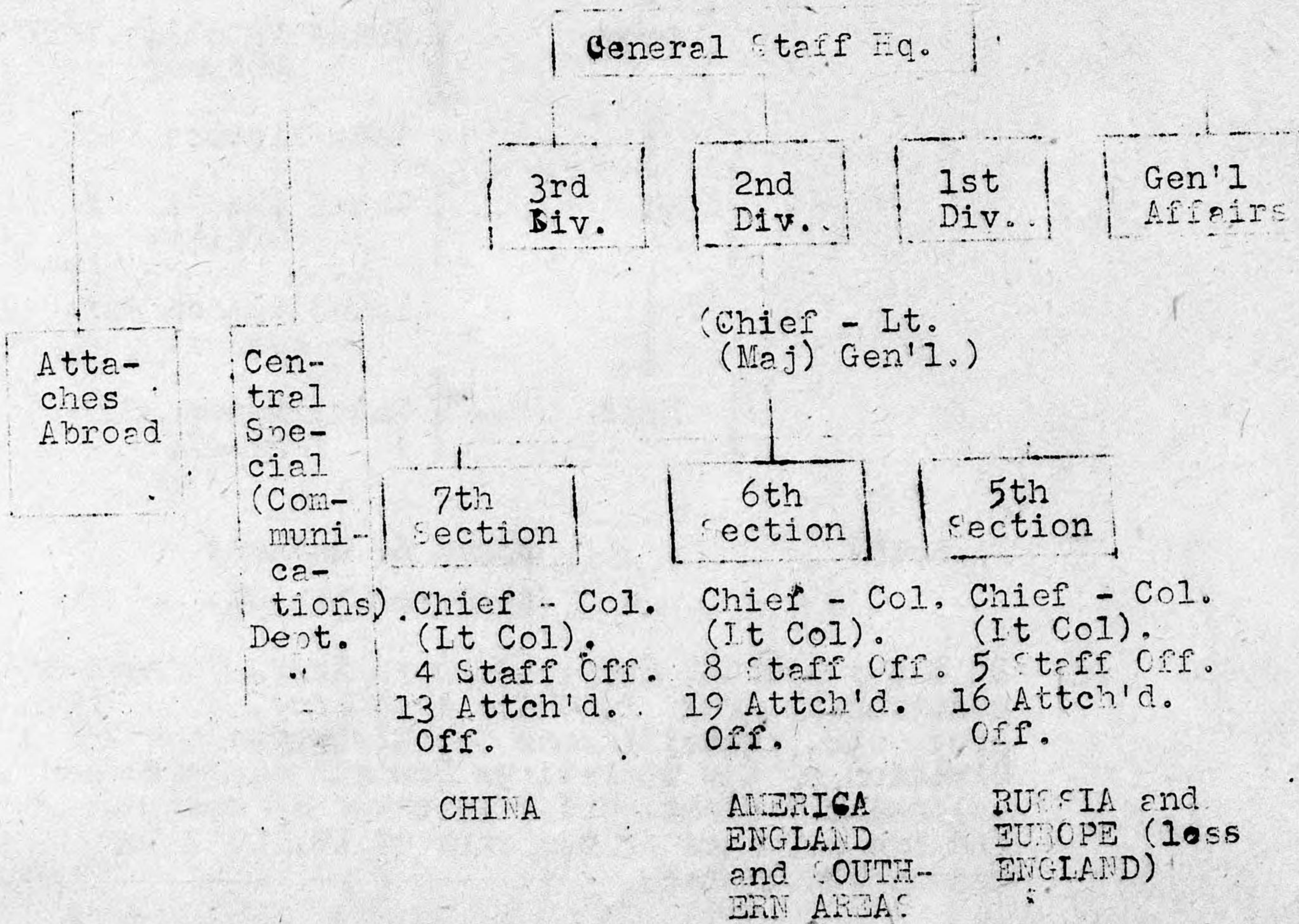
THE WRITTEN REPORT FOLLOWS:

A. ORGANIZATION

Q. 1. What was the organization of Army Intelligence? Include charts and tables showing organization and command relationship.

A. At the end of the war, the organization of the 2nd Division, General Staff Headquarters, i.e., the Army Central Intelligence Section, was as follows

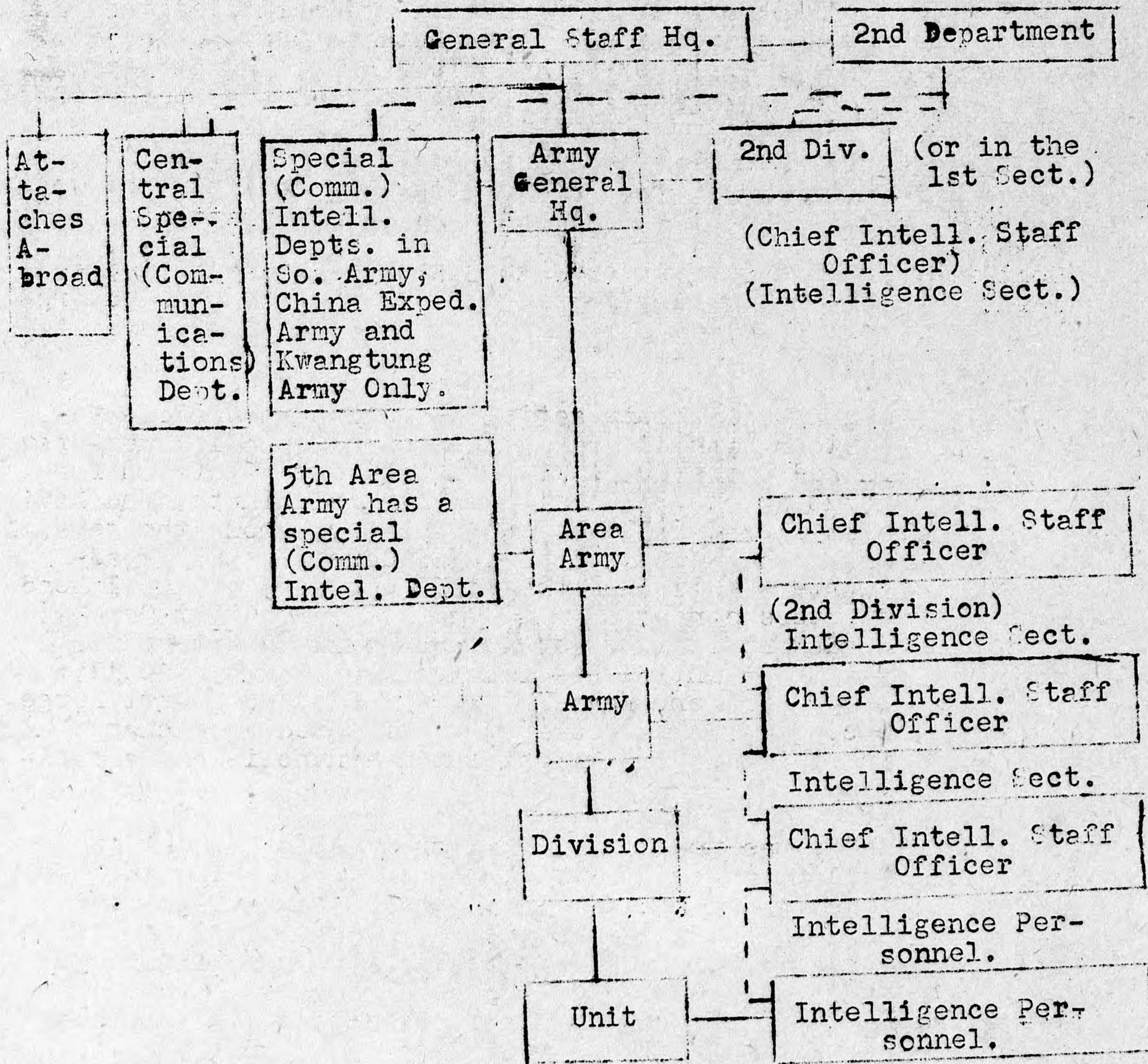
CHAIN OF COMMAND AND LIAISON CHANNELS



NOTE: Though there were some changes during the war in Intelligence, they were not extensive.

(APPROVAL SIGNATURE REF (TEM B-10))

CHAIN OF COMMAND AND LIAISON CHANNELS



Note: Chain of Command
 ----- Liaison Channels

- NOTES: (a) In the KWANGTUNG Army, Southern Army, Chinese Expeditionary Army, N. China Area Army, BURMA Area Army, etc., intelligence is allotted to the 2nd Division of the Operations Department, with one colonel (or Lieut. Col.) as chief of section and two officers of the rank of Lt. Col. (or major) and captain.
- (b) In other Army General Headquarters, area armies, and armies, there is one intelligence section under the Chief Intelligence Staff Officer. Personnel vary, depending upon local conditions, but generally there are several officers and as many enlisted personnel as needed.
- (c) In the division, and below, there are several officers and non-commissioned officers under the Chief Intelligence Staff Officer.

RESTRICTED

(d) In addition, the Central Special (Communications) Department - directly under the Chief of Staff - at Tokyo - is charged with radio intelligence and code deciphering. The Southern Army, China Expeditionary Army, KWANGTUNG Army, and 5th Area Army (HOKKAIDO) also have Special (Communications) Intelligence Departments.

(3) Attaches resident abroad played an important role.

Q. 2. To what extent were Army intelligence activities integrated with those of the Navy, and with government agencies; with Army Air Forces, with Naval Air Forces?

A. Army intelligence activities maintained close relations with its respective Naval opposite numbers. In addition, every week on Saturday afternoon for about two hours, meetings were held in the 2nd Division of General Staff Headquarters among the several interested staff officers of General Staff Headquarters including the staff officers of Naval Headquarters concerned with the U. S., the Air General Headquarters, the 1st Army General Headquarters, the Army Central Special (Communication) Intelligence Section, Navy Units, the Surface Escort Force, etc. In these meetings, we effected an exchange of intelligence and sought for a synthesis and a decision.

There was no special liaison with government intelligence agencies. Exchange of intelligence was, however, accomplished by mutual study of current DOMEI communications and by personal liaison with civilian and military intelligence organizations.

Q. 3. What methods and aids were used to train officers for intelligence duties?

A. In the Japanese Army, as a result of its experience in the operations against CHINA, intelligence duty was generally looked down upon, and there was no special officer training. Towards the end of the war, however, we got together and trained for about two months, in the 2nd Division, some forty expectant officers, graduates of the Reserve Officer's School. Moreover, in addition to schooling officers intended for important intelligence positions (Army General Staff College graduates or equal), as far as possible we brought them into TOKYO before they left for their posts, either separately or in groups, and gave them liaison and educational duties. In the field, officers gave intelligence training to non-commissioned officers from time to time.

Q. 4. How were intelligence personnel selected?

A. In the selection of officers, we aimed principally at getting persons with skill in English and with unusual enthusiasm, but the results did not always turn out that way.

RESTRICTED

Q. 5. Describe the duties of staff and field intelligence officers at each level of command, including briefing, interrogation, escape and evasion, technical intelligence, etc.

A. The Senior Staff Officer in the Headquarters (units below Army Staff Headquarters) and the 1st Section, synthesized, statistically and analytically, the intelligence gathered and put in shape by the officers under him. He then made a decision, and presented his decision, as an opinion, to his superior, to the commander, and to interested parties.

Intelligence officers were generally respectively allotted such subjects as aircraft, ships, special intelligence, and ground situation. In accordance with these duties, they developed their daily intelligence, and when there was a significant change or, if no significant change, after a specific period (generally 10 days), they consolidated available data, sought for the pertinent decision, and used it as the material with which to judge the enemy's plans.

The duties and leadership of the Special (Communications) Intelligence Department is shown in Appendix A of this report.

Q. 6. Give number of personnel assigned either on full or part time duty with intelligence in each echelon.

A. These figures are shown in organization table (answer to question 1 of this section).

B. OPERATION

Q. 1. What were your sources of information? List them, in order of importance and reliability.

- A.
- (a) Communications intelligence and code deciphering. (Army: Central Special Intelligence Department. Navy: Special Section).
 - (b) Reports from field units.
 - (c) Prisoners of war and captured documents.
 - (d) Reports of attaches and diplomatic representatives abroad. (Army, Navy, and State Dept.
 - (e) Broadcast monitoring. COMINT Communications (Intelligence Office).
 - (f) Newspapers, magazines.

Q. 2. How was the information processed and used after you received it?

A. There was a great deal to produce, from the above sources, reports, and important intelligence. We planned the collection of intelligence; we examined it comparatively, arrived at decisions, and after study by the interested staff officers, reported the results to the areas concerned.

RESTRICTED

Q. 3. Give in detail methods of estimating:

- (a) U. S. strength.
- (b) U. S. losses.
- (c) U. S. intentions.

A. (a) The determination of U. S. strength was customarily derived principally from numbers of transports and estimated total tonnage. To this was added reports from field units.

It was determined that for one U. S. division 300,000 tons, more or less, of transport shipping, including military supplies, were usually required. Moreover, the reports from field units generally divided shipping into large, medium, and small types. On the basis of a large type being over 5,000 tons, a small type under 1,000 tons, and the remainder being the medium type, a rough estimate of shipping volume was made.

- (b) U. S. losses were mainly based on reports from field units; moreover, it was necessary to arrive at a decision by estimating the character of the battle, etc. We had the impression, however, that personnel losses inflicted on the U. S. forces were greater than our own.
- (c) We think we were generally able to make an accurate decision on U. S. plans from the communications intelligence materials shown on the sheet attached hereto. (See Appendix A).

Q. 4. What means did you have for disseminating or exchanging intelligence information with:

- (a) Other intelligence activities?
- (b) Operational and combat units in the field?

A. (a) Liaison was effected by radio and in writing, along the normal chain of command. In addition, generally, at the Army level and above, 10-day intelligence summaries were exchanged. By such means, and by reporting estimates regarding changes in the air raid and general situations, we planned to consolidate our thinking on these matters.

(b) Liaison in the field was effected by meetings of chief intelligence personnel and missions by staff members. Moreover, once or twice a year, in the spring and fall, chief intelligence staff officers met together. In addition, we sent interested staff officers to field units to effect any necessary liaison. - Though operational and combat units in the battle areas made reports on intelligence as outlined before, there was no special intelligence communications net.

RESTRICTED

RESTRICTED

Towards the end of the war, as a result of the deterioration of the general situation and the congestion of communications, we adopted an intelligence broadcast system with Imperial General Headquarters at the center. We expected to extend it successfully to the several field armies and to see good results from it, but before it was successful in field armies, the war was over.

Q. 5. What was the procedure in extracting information received from:

- (a) U. S. prisoners of war?
- (b) Captured documents?
- (c) Natives in country where battle was fought?

- A.
- (a) U. S. prisoners of war were chiefly of low rank; consequently, though we were generally able to trust the information, such as it was, that we were able to get from them, there were very few cases where we were able to get important information on account of thorough U.S. counter-intelligence measures. We did not consider any special methods of interrogation; that depended on the intelligence officer's ability.
 - (b) There were few captured documents of value. We were able to learn the capabilities of shot-down planes from the planes themselves. We obtained an organization chart of American naval units from a plane shot down in an air raid on Japan early this year. From this we constructed a clear picture of U.S. Naval power.
 - (c) We were able to pick up nothing in the intelligence line from local inhabitants. We felt strongly, on the other hand, that you were able to get intelligence of our situation from such sources.

Q. 6. What Army, Navy, and other intelligence publications were published? Please inclose copy of each, if available.

- A.
- (a) The following were distributed regularly at General Staff Headquarters:
 - (1) Publication every 10 days: - mainly changes in the combat situation in various areas.
 - (2) Air intelligence: - publication every 10 days on air operations.
 - (3) Intelligence monthly on America: - Assembled intelligence on America.
 - (4) American Battle Report: - lessons and outstanding points on American tactics, based on combat experience in the field.

RESTRICTED

In addition, as changes occurred in the situation, we gathered the intelligence; used it to make an estimate of the situation and a timely estimate of enemy plans, arrived at a decision, and dispatched the gist of it to the armies concerned.

(b) Armies in the field: As in General Staff Headquarters, armies in the field usually published intelligence, concentrating on distributing important information received from higher headquarters, particularly data relating to U. S. tactics.

(c) Navy: Material acquired from the Navy was chiefly military material concerning the American Navy, such as U. S. Naval organization, materiel, and tactics.

Q. 7. To what extent did German intelligence on Allied or U. S. Air Forces and equipment aid the Japanese?

A. Intelligence received from Germany came principally in the form of cabled reports from our attaches in Germany and concerned, for the most part, U. S. organization and materiel. Although we depended almost entirely upon this type of material from friendly sources at the beginning of the war, it is doubtful whether it was especially profitable. Moreover, since the degree of accuracy of intelligence in our files on such matters as the organization and location of any particular unit (concerning all U. S. forces) was unsatisfactory, the results of any evaluation or estimate were unsatisfactory. In the SCIO-MONS area, Japanese and U. S. forces fought in close contact, so, gradually, we were able to make out the real state of affairs in the U. S. forces.

C. EFFECTIVENESS

Q. 1. How successful and accurate was your intelligence organization in making periodic estimates of Allied and U. S. air strength, capabilities, and intentions?

A. On the basis of communications intercept reports, outlined on the attached sheet (Appendix A), we were generally able to determine rather accurately the time and scope of any U. S. operation about two weeks in advance. We had, however, a good deal of difficulty in determining the location.

We usually determined air strength accurately from the number of front-line airfields and planes making air raids and the frequency of the latter.

Q. 2. What provision was made for analyzing captured equipment, including crashed aircraft? How was such information disseminated?

A. Captured material such as shot-down aircraft was collected and studied by Air Headquarters and the research agencies concerned. The end of the war came, however, before we could satisfactorily utilize this information. We regretted that our materials on ground ordnance, particularly as pertained to amphibious operations, were not satisfactory.

Q. 3. How reliable was the technical intelligence on Allied and U. S. equipment?

A. We received no special intelligence materials other than those obtained from Germany. (The Technical Section of Air General Headquarters analyzed captured equipment chiefly for the purpose of using the data for the improvement of Japanese aircraft).

Q. 4. How effective and successful was the interrogations of U. S. airmen and other prisoners of war?

A. We received fragmentary information from U. S. flyers and other prisoners of war, but very little which was pertinent to the issue.

D. AERIAL PHOTOGRAPHY

Q. To what extent did the Army rely on photographic intelligence? Comment on its effectiveness.

A. We made considerable efforts to utilize photos, but there were many instances in which we were inferior in air strength and felt the "pinch" in command of the air. We were, however, able to estimate accurately in each area, through air photos, the condition of U. S. front-line air bases. Also, we put considerable effort into making maps of operations areas and of unmapped areas, but it cannot be said that we attained our aim satisfactorily.

E. JAPANESE INTELLIGENCE PRIOR TO THE WAR

Q. Summarize Japanese intelligence activities prior to the war, using A, B, and C as a guide for detail or information desired.

A. Intelligence sources before the war were exceedingly scanty, and the sum total of intelligence obtained added up to only a few items gathered by attaches and diplomatic representatives abroad.

NOTE: Appendix A follows on page 9.

Materials for Estimating American Operational Plans, based on special data provided by American Communications.

SUMMARY:

We monitored American ship and air unit radio communications, made a systematic statistical investigation and analysis of this communications data, and compared it with past examples. When we made an estimate, we could turn out a general one concerning the scope and inception of a new American operation about one month before, and concerning the projected operations area about 1 to 2 weeks in advance. Specifically, this was tactical (strategic) intelligence effective against American operations.

- | | | | |
|-----------------------------|--|---|---|
| 1. BAMS | <p>IWO (19 Feb)
The number of ships that turned up daily conspicuously between the end of January and the first of February, leaving us to infer positive plans for the beginning of a movement.</p> | <p>OKINAWA (1 April)
After the latter part of February the number of ships turning up increased steadily. We inferred that a new operation in the CPA was being initiated, subsequently to the IWO JIMA Operation.</p> | <p>EXPLANATION
When we studied the number of ships turning up in each ten day period statistically and compared any increase or decrease with previous samplings, we were able to estimate the time and scope of a projected American operation about 1 month in advance.</p> |
| 2. Assembling of Ship Units | <p>The number of ships counted at advance bases in the Marianas and Marshalls increased pari passu with the increase of ships that turned up in BAMS. Thus we knew previously of the assembling of ships at these bases.</p> | <p>The number of ships counted at Leyte, in the Marianas, and Marshalls increased pari passu with the increase of ships that turned up by BAMS. We inferred that the Marianas and Philippines were deployment areas for a subsequent operation.</p> | <p>Based on the assembly of ships at advance Central Pacific bases, the transport situation with regards to deployment of forces, we were able to estimate the time, scope and general direction of a new operation 2 to 3 weeks in advance.</p> |
| 3. Task Force Activity | <p>We inferred plans for the beginning of a new operation subsequent to the raids on the Japanese Homeland by task forces on the 9th and 10th of February.</p> | <p>We inferred plans for beginning a new operation from raids carried out continuously on the homeland and Okinawa during the early and middle parts of March.</p> | <p>On the basis of our experience of the fact that Task Force became active in the prelude to a new operation, we were able to take it as the sign that an operation was impending and to figure out the operational area from the area of activity.</p> |

4. Location of Commanders. About the 1st part of January the Submarine Commanders of the Pacific and NIMITZ's Headquarters moved to Guam. After the latter part of February the movement of Base Air Unit Commanders into the Philippine and Marianas bases became more and more common. The displacement of Commanders forward accompanied plans for the inception of a new operation and, according to past experience, inevitably occurred several days to 1 month before an operation.

5. Base and Air Unit Condition. The increase in base air strength in the Marianas between the end of December and the first part of February was striking. From the latter part of February on, the increase in air strength in the Philippines, especially Luzon, and in the Marianas was very striking. When positive operational plans were in progress, it was usual for there to be a steady movement (of planes) to forward bases 2 to 3 weeks in advance.

6. Transport and supply aircraft. After the first part of January there was a noticeable gathering of transport and supply aircraft from America at the advance Mariana and Philippine bases. After the Iwo Jima operation assemblage of supply and transport craft at advance Marianas and Philippine bases was increasingly obvious. It was customary for such aircraft to become very active 1 to 2 weeks before a new operation, though, of course, this varied with the Army and Navy aircraft stationed in these areas.

7. Changes in weather Communications. Weather broadcasts of Marianas base air units on Iwo Jima, Okinawa and the Japanese homeland increased markedly after January. Weather broadcasts of Marianas and Philippines base air units, especially B-29's, on Okinawa and the homeland increased markedly. We were able, by a statistical analysis of weather communications, to determine their focal point and the objective of an operation.

8. Changes in communications origins. In the first part of January, the call signs of aircraft and bases were totally changed in the Central Pacific area only. In the first part of March, some of the ship and unit call signs were changed. There were many instances when the change in communications originators clearly showed a new, definite plan for an operation, such changes coming generally about 1 month before.

- 9. Commu-
nic-
ations
Hand-
ling.

The frequency of operational broad-
casts from Honolulu and the Admiralties decreased markedly after the Philippines operation and com-
munications handled in the Central Pacific Area increased greatly.

As in the case of the Iwo Jima operation, the noted handling of com-
munications centering around the Central Pacific Area increased markedly, especially in the Marianas and Leyte areas.

We were able to determine the area in which the American Army was interested from the handling of communications. Subsequently we could determine the definite operational objective.
- 10. Appearance of
special
unit
code
names
(Tele-
phone or
KU chan-
nels).

In February tele-
graphic traffic with special unit
code names became noticeable. There was a great in-
crease in new unit
code names.

After the first part of March, special unit code names that had not been used after the Iwo Jima operation came in again to frequent use. It suggested the beginning of a definite new move-
ment.

We were able to determine the general outline and scope of an operation from the increase or decrease of main unit code names, for these materials were useful for inferring the beginning of a definite new operation.
- 11. Acti-
vity of
scout-
ing air-
craft.

Search and reconnais-
sance of search aircraft units from Marianas bases of Iwo Jima and the Homeland increased. B-29-led reconnais-
sance, especially just before the operation, suggested the objective.

Reconnaissance of Okinawa and the Homeland by search aircraft based on Luzon and Marianas, especially by B-29s, became very active. The focal point, especially of Marianas air unit searchers, suggested the Okinawa Area as the objective.

By analyzing search aircraft sector units statistically and determining their focal points, we could determine the direction of a subsequent operation, frequently several days to a week before the operation.
- 12. Sub-
mar-
ine
act-
ivity

Submarine activity around Iwo Jima was marked from the end of December into January. After the latter part of January it fell off.

At this time, the scope of submarine activity was gradually being concentrated in the seas off our homeland, particularly with the loss of our dependencies. Though it was difficult to estimate the subsequent operational objective, submarines had been concentrated in the Okinawa area since the first of this year.

According to past example, submarine concentrations occurred against the landing point 1 month prior to the landing and activity fell off relatively just before the landing.

SUMMARY

IWO JIMA:

- 1. Time of Operation: From consideration of points 1 to 12, especially 1 to 8, it was determined, around the end of the 3rd week in January, that operations would begin after the middle of February.
- 2. Scope of Operation: Comparing examples since the ATTU campaign under point 1, forces to be used were estimated around the first part of January at two to three divisions.
- 3. Operational Area: From raids of task forces and activity of our search aircraft and submarines, the objective area was estimated about the end of January, to be Iwo Jima.

OKINAWA:

- 1. Time of Operation: From points 1 to 12, especially 1, the time of this operation was estimated, early in February, to be in late March.
- 2. Scope of Operation: Estimated in early part of February, from point 1, that forces used initially would be about three divisions. In the early part of April it was estimated that subsequently the total would be increased to six divisions.
- 3. Operational Area: About the middle of March it was estimated that the objective would be Okinawa, from the deployment and assembling of forces, from the raids of task forces, and from search aircraft and submarine activity.

別紙

5 部隊状況 基地航空	4 進出状況 指揮官	3 機動部隊	2 集結状況 艦船部隊	1 (BAMS) 商船放送 對聯合國	要旨
<p>一月下旬以降米本國方面より大 極顯著トシ リヤナ基地ノ航空兵力増盛 十有下旬以降二月下旬ヨリマ</p>	<p>分アハ傷ニ進出ス 部隊指揮官及「ミッド」司令部 二月下旬前後太平洋方面ノ潜水</p>	<p>作戰開始ノ企圖ヲ示唆ス 土方面ニ未襲シ引續キ新 二月九日及十日機動部隊日本々</p>	<p>加シ該方面ノ艦船集中ヲ豫察ス 方面ニ於テ艦船ノ測定隻數増 前進基地タル「マリアナ」及「マーシャル」 BAMS出現隻數ノ激増ニ伴ヒ</p>	<p>積極的行動開始ノ企圖ヲ示唆ス 旬末ニ亘リ概シテ顯著ニ上昇シ 日々ノ出現隻數一月下旬ヨリ二月上 硫黃島作戰(二月十九日)</p>	<p>間前ニ概略ノ判定ヲ下シ得、對米軍作戰上有力ナ戦畧(術)情報ヲリ 始、時機及規模ニ關シテハ概シテ一月前ニ指向方面ニ關シテハ其ノ約一週間乃至二週 事象ノ分析ト依リ得タル各要素ヲ過去ノ事例ト照合シ推測判斷セバ米軍新作戰開 米軍艦艇及航空部隊等ノ無線通信等ヲ傍受シ之カ組織的統計調査ニハト共ニ通信</p>
<p>硫黃島作戰ニ引續キ太平洋 方面ニ對シテ關心大トシテ察知ス 増勢愈々顯著トナリ共ニ沖繩 及「マリアナ」方面ニ對シテ航空兵力 二月下旬以降比島就中「ジョン</p>	<p>指揮官ノ進出漸次顯著トナル 面基地ニ對シテ基地航空部隊 二月下旬以降比島及「マリアナ」方 ヲ示唆ス</p>	<p>龍ノ新機戰開始ノ企圖 連續的本土及沖繩方面ニ未 三月上旬中ヨリ機動部隊 島方面ニ示唆ス</p>	<p>戰ノ開始ヲ示唆ス ニ中部太平洋方面ニ於テ新作 激増シ硫黃島作戰ニ引續キ更 出現隻數二月下旬以降漸次ニ 沖繩作戰(四月一日)</p>	<p>戰ノ開始ヲ約一月前ニ判斷シ得ル有力ナ 單、新作戰ノ時機及規模ニ關シテハ 増減状況ヲ過去ノ戰例ト照合セバ米 出現隻數ヲ統計的ニ調査シ其、 資料ナリ</p>	<p>間前ニ概略ノ判定ヲ下シ得、對米軍作戰上有力ナ戦畧(術)情報ヲリ 始、時機及規模ニ關シテハ概シテ一月前ニ指向方面ニ關シテハ其ノ約一週間乃至二週 事象ノ分析ト依リ得タル各要素ヲ過去ノ事例ト照合シ推測判斷セバ米軍新作戰開 米軍艦艇及航空部隊等ノ無線通信等ヲ傍受シ之カ組織的統計調査ニハト共ニ通信</p>
<p>陸海軍現在ノ航空機ニ依リ若干異 例トス 日漸次前才基ニ方面ニ進出スルヲ 積極的作戰企圖ニ伴ヒ二月至三間前 象マノ</p>	<p>作戰一月前又ハ数日前ニ出現ス事 件ニ必然的ニテ從來ノ例ニ依リ新 指揮官ノ進出漸次新作戰開始企圖ニ 得</p>	<p>動方面依リ作戰方面ノ概畧ヲ察知シ 作戰開始ノ兆ヲ察知シ又共ニ活 部隊ノ活動積極化ニ事例ニ依リ 新作戰開始ノ前提トシテ機動</p>	<p>三週間前ニ判斷シ得 リ新作戰ノ規模及方向概畧ヲ示 船ノ集中輸送状況及兵力展開状況依 中部太平洋方面前進基地ニ對シテ艦</p>	<p>資料ナリ 戰ノ開始ヲ約一月前ニ判斷シ得ル有力ナ 單、新作戰ノ時機及規模ニ關シテハ 増減状況ヲ過去ノ戰例ト照合セバ米 出現隻數ヲ統計的ニ調査シ其、 資料ナリ</p>	<p>間前ニ概略ノ判定ヲ下シ得、對米軍作戰上有力ナ戦畧(術)情報ヲリ 始、時機及規模ニ關シテハ概シテ一月前ニ指向方面ニ關シテハ其ノ約一週間乃至二週 事象ノ分析ト依リ得タル各要素ヲ過去ノ事例ト照合シ推測判斷セバ米軍新作戰開 米軍艦艇及航空部隊等ノ無線通信等ヲ傍受シ之カ組織的統計調査ニハト共ニ通信</p>

米軍通信面上ニ出現スル特異事象ニ依リ其作戰企圖判斷資料

綜

定セリ
 乃至三ヶ師團ト一月下旬判
 事例ヲ照合シ使用兵力ニ
 一ノテソツク作戦以來過去ノ
 二作戦規模
 未判定セリ
 旬以降開始スルモノト一月下旬
 一乃至二就中ノ及八ヨリ二月中
 二作戦時機

四月上旬頃判定セリ
 六ヶ師團ニ増加スル算アリト
 師團ナリト二月上旬判定シ爾後
 一ノテソツク使用兵力ハ約三ヶ
 二作戦規模
 判定セリ
 以降開始スルモノト二月上旬頃
 一乃至二就中ノ一ヨリ三月下旬末
 二作戦時機

12
 活動状況
 潜水艦ノ
 化ス
 トリ月下旬以降比較の開散
 心トスル潜水艦集結状況顯著
 三月末ヨリ月三ヨリ硫黄島中
 方面ヲ示唆ス
 始直前ノ特偵察隊ハ其指向ノ
 本ニテ百餘者トナリ特ニ作戦開
 部隊哨戒偵察状況ハ硫黄島及
 マリヤナ基地ヲ中心トスル哨戒機
 セラレテ示唆ス
 範囲ノ重点ハ沖繩方面ニ指向
 ニマリヤナ方面航空部隊哨戒
 土方面偵察極メテ活発化シ特
 トスル哨戒機就中B29沖繩及本
 マリヤナ及比島ロソン基地ヲ中心
 始スルヲ示唆ス
 活潑化シ新ニ積極的行動ヲ開
 名符號ノ出現ハ三月上旬以降固
 硫黄島作戦後開散化ヲ特設隊
 及ロイヤ方面ニ於テ然リ
 極メテ活潑トナル 特ニマリヤナ
 洋方面ヲ中心トスル通信處理
 硫黄島作戦ト同様ニ中部太平
 月前ニ變更セラルコト多シ
 戦ノ企圖ヲ示唆スルモノニシテ概
 通信諸元ノ變更ハ明ニ新ニ積極作
 方面ヲ判断シ得
 重点ヲ察知シ積極的作戦ノ指向
 氣象通信ノ統計調査ニ依リ其ノ
 急激ニ活潑化スル例トス
 十九日新作戦開始ニ乃至一週間前ニ

11
 活動状況
 哨戒機ノ
 方面ヲ示唆ス
 始直前ノ特偵察隊ハ其指向ノ
 本ニテ百餘者トナリ特ニ作戦開
 部隊哨戒偵察状況ハ硫黄島及
 マリヤナ基地ヲ中心トスル哨戒機
 セラレテ示唆ス
 範囲ノ重点ハ沖繩方面ニ指向
 ニマリヤナ方面航空部隊哨戒
 土方面偵察極メテ活潑化シ特
 トスル哨戒機就中B29沖繩及本
 マリヤナ及比島ロソン基地ヲ中心
 始スルヲ示唆ス
 活潑化シ新ニ積極的行動ヲ開
 名符號ノ出現ハ三月上旬以降固
 硫黄島作戦後開散化ヲ特設隊
 及ロイヤ方面ニ於テ然リ
 極メテ活潑トナル 特ニマリヤナ
 洋方面ヲ中心トスル通信處理
 硫黄島作戦ト同様ニ中部太平
 月前ニ變更セラルコト多シ
 戦ノ企圖ヲ示唆スルモノニシテ概
 通信諸元ノ變更ハ明ニ新ニ積極作
 方面ヲ判断シ得
 重点ヲ察知シ積極的作戦ノ指向
 氣象通信ノ統計調査ニ依リ其ノ
 急激ニ活潑化スル例トス
 十九日新作戦開始ニ乃至一週間前ニ

10
 發現状況
 符(8)ノ
 特設隊名
 符號増々
 處理状況顯著トナリ新發現隊名
 首入リ特設隊名符依々報告
 通信處理極メテ増加ス
 激ニ稀薄化シ中部太平洋方面
 送ノ關連性ハ比島作戦後急
 ホノルル「アドミラルティ」由作戦放
 ニ於テノ全面的ニ變更セラレタリ
 呼出符號ハ中部太平洋方面
 月初頭ニ於テ航空機ノ同基地
 一月以降急増ス
 傷沖繩及本土方面氣象通信
 マリヤナ基地航空部隊ノ硫黄
 集中顯著トナル
 愈々顯著トナル
 及比島方面前進基地ハ集中
 方面ノ輸送機及補充機「マリヤナ」
 十九日新作戦開始ニ乃至一週間前ニ

9
 通信處理
 狀况
 通信處理極メテ増加ス
 激ニ稀薄化シ中部太平洋方面
 送ノ關連性ハ比島作戦後急
 ホノルル「アドミラルティ」由作戦放
 ニ於テノ全面的ニ變更セラレタリ
 呼出符號ハ中部太平洋方面
 月初頭ニ於テ航空機ノ同基地
 一月以降急増ス
 傷沖繩及本土方面氣象通信
 マリヤナ基地航空部隊ノ硫黄
 集中顯著トナル
 愈々顯著トナル
 及比島方面前進基地ハ集中
 方面ノ輸送機及補充機「マリヤナ」
 十九日新作戦開始ニ乃至一週間前ニ

8
 通信諸元
 變
 化
 通信諸元ノ變更ハ明ニ新ニ積極作
 方面ヲ判断シ得
 重点ヲ察知シ積極的作戦ノ指向
 氣象通信ノ統計調査ニ依リ其ノ
 急激ニ活潑化スル例トス
 十九日新作戦開始ニ乃至一週間前ニ

7
 氣象通信
 傷沖繩及本土方面氣象通信
 マリヤナ基地航空部隊ノ硫黄
 集中顯著トナル
 愈々顯著トナル
 及比島方面前進基地ハ集中
 方面ノ輸送機及補充機「マリヤナ」
 十九日新作戦開始ニ乃至一週間前ニ

6
 輸送機及補
 充機ノ狀况
 及比島方面前進基地ハ集中
 方面ノ輸送機及補充機「マリヤナ」
 十九日新作戦開始ニ乃至一週間前ニ

綜

合

旬末頃判定セリ

ヨリ硫黄島方面ナリト目下
戒機及潜水艦ノ活動状況
機動部隊ノ未襲撃状況
三作戦指向方面

定セリ

乃至三ヶ師團ト一月下旬判
事例ヲ照合シ使用兵力ニ
ハ、アソツク作戦以來過去ノ

二作戦規模

末判定セリ

旬以降開始スルモノト月上旬

一、乃至八就中ノ及八ヨリ二月中

二作戦時機

三月中旬頃判定セリ

活動状況ヨリ沖繩方面ナリト
部隊ノ未襲撃戒機潜水艦
兵力展開集中状況及機動
三作戦指向方面

月上旬頃判定セリ

六ヶ師團ニ増加スル算アリト
師團ナリト月上旬判定シ爾後
ハヨリ當初ノ使用兵力ハ約三ヶ

二作戦規模

判定セリ

以降開始スルモノト二月上旬頃

一、乃至八就中ハヨリ三月下旬末

二作戦時機

by J. W. ... MANA. Date 1941

F 本國ノ情報動向

米軍ノ情報ハ我カ情報動向ニ比シ頗ル組織的ニ優秀ニシテ我カ作戦的失敗ノ一大原因ハ情報動向ノ差ニアリト認ムルモ過言ニアラス

C 成果

(1) 王トシア別紙通信諜報資料ニ基キ既ネ二週間前ニ於テ米軍ノ
 作戰時機、規模ヲ略シ正確ニ判断シ得タルモ作戰地取判新ニ
 ハ相當ノ困難アリキ
 航空兵力ハ第一線飛行場、來襲機敵、^其度等ヨリ既ネ正確ニ
 其ノ兵力ヲ判定セリ

(2) 國境裝備ノ研究
 陸軍機等ノ裝備ハ大ニ航空本部及關係研究機關ニ於テ收集并
 究セリ

然レトモ之カ利用ニ於テハ十分ナル成果ヲ見スシテ終戦ニ至
 レリ
 地上兵器關係特ニ水陸兩用作戰資材ノ不明ナリシハ遺憾トシ
 タルトコロナリ

(3) 技術諜報

獨乙ヨリ得タル外特別ノ諜報資料ナシ
 (1) 米軍飛行士及他ノ俘虏ヨリ得タル資料
 断片的資料ヲ得タルコトアルモ大局的ニ有利ナル情報ヲ得タ
 ル例ハ乏シ

D 空中寫眞

空中寫眞ノ利用ハ大ニ劣メタルトコロナルモ航空兵力ノ劣勢ト
 副空艦ノ關係上頗ル遺憾ノ多カリキ、然レトモ米軍第一線航
 空基地ノ狀況ハ空中寫眞ニ依リ各方面共正確ニ知り得タリ
 又豫想作戰地及地圖ナキ地域ノ地圖作製ノ爲大ナル努力ヲ拂ヒ
 タルモ十分目的ヲ達成セリトハ認め難シ

E 戦前ノ日本ノ情報

戦前ニ於ケル情報機關ハ極メテ貧弱ニシテ僅ニ在外使領及武官
 ノ收集セルモノニ依存シ其ノ陣容モ戰爭中ニ比スレハ感分ノ一
 ニ過キズ

米軍戰報

各方面ノ戰團ノ經驗ニ基ク米軍戰法ノ特異
事項及政訓

其ノ他情勢ノ推移ニ伴ヒ諸情報ヲ綜合シ情勢判斷ノ資料トスル
ト共ニ適時米軍ノ企圖判斷資料ヲ整理シテ判決ヲ求メ其ノ要旨
ニ關係各軍ニ傳達ス

b. 現地各軍

現地軍ハ概ニ參謀本部ニ準シ之ヲ發行スルト共ニ上級司令部ヨ
リ配布セラレタル重要事項就中米軍戰法ノ普及ニ努力セリ

c. 海軍關係

海軍ヨリ人手シタルハ主トシテ米海軍ニ關スル軍事綜合資料ニ
シテ米海軍ノ編成・裝備・戰法等ニ關スルモノナリ

(7) 獨乙ヨリ得タル情報資料

獨乙ヨリ得タル情報資料ハ主トシテ駐獨武官ヨリノ電報ニヨリ報
告セラレ主トシテ米軍ノ編成・裝備關係ノモノ多ク此種ノ我カ對
米資料ハ戰爭當初殆ント之ニ依存シアリタルモノ之カ爲特別有利ナ
ハ

リシモノアリトハ認メ難シ

又同隊ノ編制位置等ノ情報ハ當方ニ於ケル原簿(米軍全般ニ關ス
ルモノ)ノ確度不十分ナリシ爲査察決定ニハ效果不十分ナリ
「ソロモン」方面ニ於テ日米直接戰團スルニ及ヒ逐次米軍ノ實情
ヲ認識スルニ至レルヲ以テナリ

終ニ關スル判斷ヲ通報、報告シ思想ノ統一ヲ圖レリ

b 情報主任者會同及幕僚派遣

又一年ニ一回或ハ春秋二回情報主任參謀會同ヲ實施スルト共ニ關係參謀ヲ現地軍ニ派遣シ所要ノ連絡ヲ爲サシム

c 戰場ニ於ケル作戰、戰團部隊モ又前事項ニ準シ情報ノ報告、通報ヲ爲セシモ特別ニ情報通信網ハ之ヲ有シアラス

d 情報放送

戰爭末期ニ於テ戰況逼迫シ情報通信ノ幅狭ラ來スマ大平營ヲ中心トスル情報放送形式ヲ採用シ之ヲ逐次現地各軍ニ普及逐次其ノ效果ヲ見ントシツツアリタルモ現地軍ニ於テハ十分ナル成果ヲ見ザル中ニ終戦トアレリ

(5) 情報審査要領

a 米軍俘虜

米軍俘虜ハ主トシテ下級者多ク之カ爲是等ヨリ得タル情報ハ概不其ノ儘之ヲ信用シタルモ米軍ノ防護手段巧ニシテ重要ナル者

五

料ヲ得タル例ニ乏シ

審査手段トシテ特例ニ考慮セシコトナク主任者ノ既得職能ニ依存セルノミ

b 鹵獲文書

鹵獲文書トシテ價值アリシモノ少ク擊墜機ヨリ該機ノ性能等ヲ知待スル程度ニシテ本年初頭ノ内地空襲ニ於テ擊墜機ヨリ米軍軍部隊ノ編成表ヲ人手シ其ノ兵力ヲ明ニサルコトアリ

c 戰場タリシ地方住民

地方住民ヨリノ情報得待及審査ニ關シテハ取擧ガヘキモノナク却テ我方ノ狀態ヲ取ラレタルノ感多シ

(6) 陸海軍等ヨリ出サシ情報書類

a 參謀本部ニ於テ定期的ニ配布セシモノ

旬報

各方面ノ戰況ノ推察ヲ主トス

航空情報

航空作戰關係ノ旬報

米軍情月報

人手セル米軍關係ノ情報

B 運用

(1) 情報源 (重要度、確度順)

- a 通信謀報及暗號解讀
(陸軍中央特種情報部、海軍特務班)
- b 現地軍報告
- c 俘虜鹵獲文書
- d 外國駐在武官及在外使臣ノ報告 (陸海軍及外務省)
- e 放送接受、同盟通信 (情報局)
- f 新聞、雜誌

(2) 前項情報源ヨリノ報告及所要ニ應ジ必要ナル情報ノ提供ヲ要望シ

テ之カ入手ヲ圖リ他情報ト比較審査シテ判決ヲ求メ更ニ關係參謀
研究シタル後其ノ結果ヲ關係方面ニ通報ス

(3) a 米軍兵力ノ判定

米軍兵力ノ判定ハ主トシテ輸送船ノ數及推定總噸數ヨリ判定ス
ルヲ通常トシ之ニ現地軍ヨリノ報告ヲ加味ス

米軍一師團ノ爲ノ輸送船復ハ軍需品ヲ含ミ噸不三十万噸内外ト
判定シ又現地軍ヨリノ報告ハ船舶ヲ噸不大中小型ニ區分シ大型
ハ五千噸以上小型ハ一千噸以下其他ハ中型トシ右ノ基準ニヨリ
船腹量ヲ推算ス

b 米軍ノ損害

米軍ノ損害ハ主トシテ現地軍ヨリノ報告ヲ基準トシ尙戰鬪ノ狀
況等ヲ推察シテ判定スルヲ通常トシタルモ米軍ニ與ヘタル人的
損害ハ我損害ニ比シ左程大ナラストノ感ヲ受テアリ

c 米軍ノ企圖

米軍ノ企圖ニ關シテハ別紙通信謀報資料ニヨリ概不正確ナル判
斷ヲ爲シ得タルモノト思惟スルモ計畫實施上時間的ニ餘裕乏シ
キヲ常トヤリ

(4) 情報ノ連絡、交換手段

a 通常統帥系統ニ從ヒ電報及文書ヲ以テ連絡スルト共ニ概不軍以
上ニ於テハ情報旬報ヲ交換シ主トシテ空襲狀況、一般情勢ノ推

秀ナル者ヲ元ツル如ク指示セラレタルモ必スシモ然ラサルモノ
モアリタリ

(3) 司令部及第一線ニ於テ情報主任參謀（將校）ハ其ノ部下將校ノ
収集、整理セル情報ヲ統計的或ハ分析的ニ綜合判斷シ其ノ判決
ヲ上級者及指揮官ニ關係者ニ意見具申ス

情報將校ハ概ネ航空關係、艦船關係、特情關係及地上戰況關係
等ヲ夫々分擔シ其ノ任務ニ應ジ毎日ノ情報ヲ整理シ重要ナル變
化アルトキハ其部復其他ハ概ネ十日毎ニ綜合研究シ所要ノ判決
ヲ派メ敵ノ企圖ヲ察知スルノ資トナス

中央特種情報部ノ業務指導別冊ノ如シ

(4) 簡易表記述ノ如シ

- b. 關東軍、兩方軍、又那派道軍、北支那方面軍、關東方面軍等ハ參謀部第二課ニ於テ兩報ヲ擔任シ課長入(中)一佐一參謀中(少)一佐入尉ニ有ス
- c. 兵ノ他ノ總軍、方面軍、軍ハ情報主任參謀ノ下ニ情報班ヲ置キ其ノ人員ハ各々軍ノ情況ニヨリ異ナルモ概不將校數名及所屬ノ下士官兵等ヲ有ス
- d. 師團以下ニ於テハ兩報主任參謀(兩報官將校)ノ下ニ若干ノ將校、下士官ヲ置ク
- e. 石ノ外參謀總長直轄タル中央特種情報部ハ電波情報、暗號班讀ヲ擔任ス
- f. 在外武官、又兩方軍、又那派道軍、關東軍ハ特種情報部ヲ有ス

及第五方司令部(北極星)

- (4) 及(3)陸軍ノ情報班助ハ三トシテ海軍ト各々主任者間ニ連絡ヲ保持スル他海軍土佐中隊村ニ時間參謀本部第二部ニ於テ參謀本部、軍司令部對米情報參謀、航空總軍、第一總軍、陸軍中央特種情報部、海軍總隊及海上護衛總隊等ノ各主任參謀會合シ情報ノ交換ヲ行ヒ亦會判決ヲ求ム
- 政府ノ情報機關トハ特別ナル連絡ナク情報局ノ人手スル間並ニ信ニ依ルノ他個人的ノ連絡ニヨリ情報ヲ交換シタル程度ナリ
- (5) 日本海軍ニ於テハ對又作戦ニ於ケル經驗ニヨリ一般ニ情報勤務輕視セラレ特別ナル將校教育重視セサリシモ戰爭末期ニ於テハ豫備士官學校卒業ノ見自士官約四〇名ヲ第二部ニ於テ約二ヶ月兼合教育セシコトアリ
- 又情報主任タルハ千將校一陸軍大學校卒業及之ニ準スルモノ一又主任前教育セル外為シ得ル限り主任將校ヲ同時又ハ各別ニ東京ニ招致シ連絡及教育ニ任セリ現地ニ於テハ夫々將校時トシテ下士官ニ對シ情報訓練ヲ行ヘリ
- (5) 右將校ノ選定ハ主トシテ英語ノ堪能ナル者ニシテ比較的熱心機

十一月三日附戦略爆撃調査團第二部ヨリ有米情ニ陸軍中將ニ對スル覺書解答

日本陸軍情報ニ關スル報告

昭和二十年十一月八日
陸軍省
謀本部
業務整理部

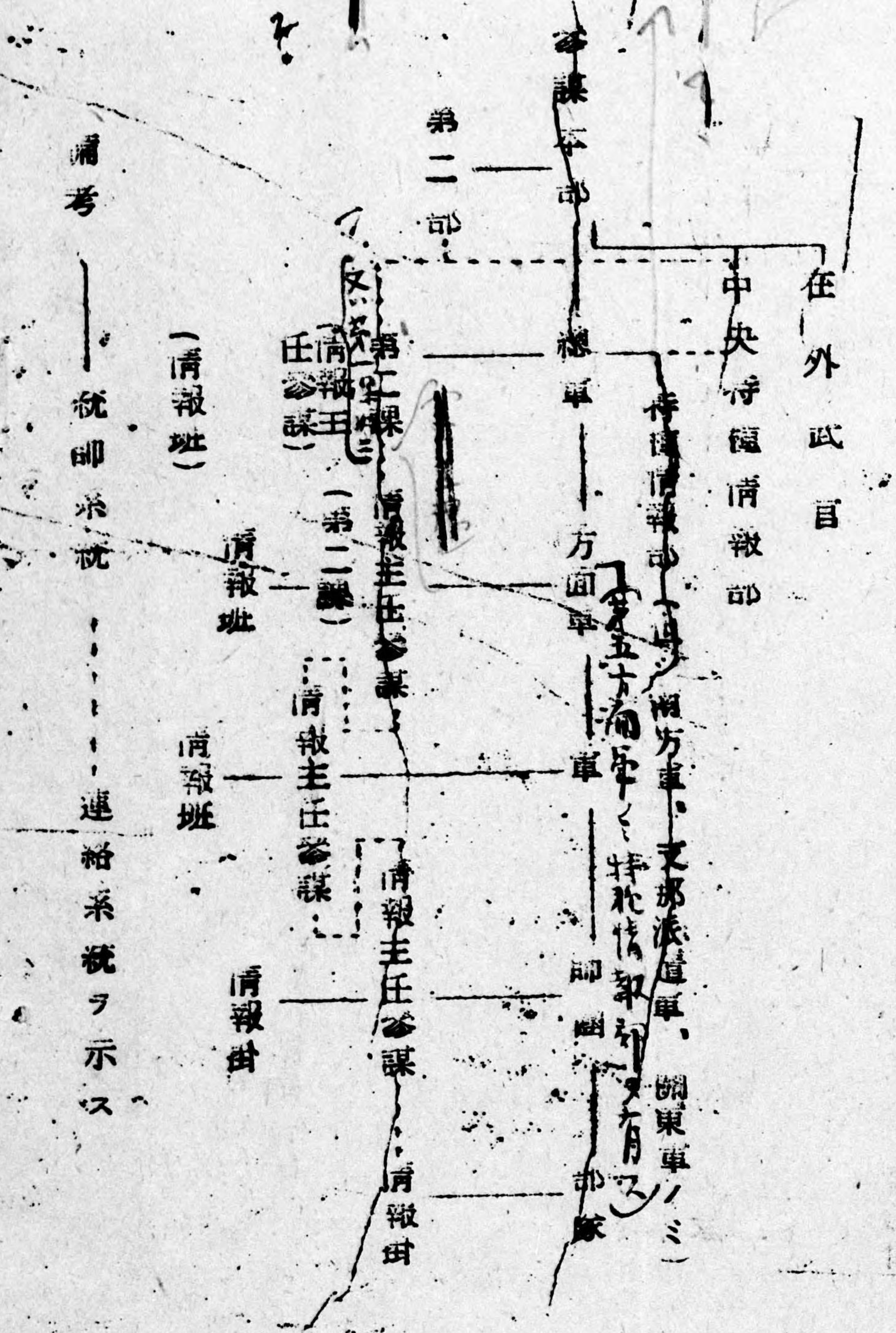
一、本報告ハ主トシテ對米作戰情報ニ關シ報告ス
二、A編制

(1) 陸軍情報部ノ編制

a. 參謀本部第二部ハ陸軍中央ノ情報部ニシテ終戰時ニ於ケル兵
ノ編制次表ノ如シ



註 戰爭中ヲ通シ多少ノ變更アリタルモ情報編制ニ於テハ大ナル變化ナシ



U. S. STRATEGIC BOMBING SURVEY
(PACIFIC)
Japanese Intelligence Section,
G-2

B-13

TRANSLATION OF A JAPANESE DOCUMENT LISTING
JAPANESE NAVAL ATTACHES ON FOREIGN SERVICE
FROM 1936 TO AUGUST 1945.

(JAP INTEL SUPPL REF ITEM B-13)

NAVAL ATTACHE TO THE U. S.

Term of Service	Rank at that time	Present rank	Name
18 Aug 1936 to 25 Jan 1939	Capt.	V. Adm.	KOBAYASHI, Kengo
25 Jan 1939 to 10 Oct 1940	Capt.	R. Adm.	KOGAWA Kanji
10 Oct 1940 to 26 Aug 1942	Cmdr.	V. Adm.	YOKOYAMA, Ichirō

ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO THE U. S.

10 Apr 1936 to 15 Feb 1938	Lt.Cmdr.	R. Adm.	MIURA, Kanzō (died of illness)
20 Oct 1936 to 20 Oct 1937	Lt.Cmdr.	Capt.	SHIKI, Tsuneco
20 Oct 1937 to 1 Oct 1938	Lt.Cmdr.	Capt.	TAMURA, Saburō (KIA)
15 Feb 1938 to 20 Jan 1940	Cmdr.	Capt.	TAGUCHI, Tarō
1 Oct 1938 to 25 Sept 1939	Lt.Cmdr.	Capt.	MUCHAKU, Semmei
25 Sept 1939 to 1 Sept 1940	Lt.Cmdr.	Capt.	KISAKA, Yoshitane
20 Jan 1940 to 26 Aug 1942	Lt.Cmdr.	Cmdr.	TERAI, Yoshimori
1 Sept 1940 to 26 Aug 1942	Lt.Cmdr.	Capt.	SANEMATSU, Yuzuru

NAVAL ATTACHE TO MEXICO

20 Mar 1937 to 15 June 1937	Cmdr.	R. Adm.	HAMANAKA, Masasuke
15 June 1939 to 15 May 1941	Capt.	R. Adm.	SATŌ, Katsunari

ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO MEXICO

Nov 1940 to 26 Aug 1942	Lt.Cmdr.	Capt.	WACHI, Tsunezō
-------------------------	----------	-------	----------------

NAVAL ATTACHE TO CANADA

15 Nov 1935 to 15 Dec 1938	Cmdr.	R. Adm.	TAKEUCHI, Kaoru
15 Dec 1938 to 1 Aug 1941	Cmdr.	Capt.	YAMAJI, Kazuyuki

NAVAL ATTACHE TO PHILIPPINES

Term of Service	Rank at that time	Present rank	Name
14 Oct 1943 to 15 Nov 1943	Capt.	R. Adm.	ISHIHATA, Shirō
15 Nov 1943 to 28 Dec 1943	Capt.	Capt.	HAZAMA, Naoakira
28 Dec 1943 to 25 Dec 1944	Capt.	R. Adm.	HIRAIDE, Hideo

ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO PHILIPPINES

14 Oct 1943 to 15 March 1944	Cmdr.	Capt.	HANAOKA, Yuji
15 March 1944 to present	Lt. Cmdr.	Cmdr.	YAMAMOTO, Shigeichi

NAVAL ATTACHE TO THAILAND

5 June 1936 to 25 Mar 1938	Cmdr.	R. Adm.	NAKADŌ, Kankei
25 Mar 1938 to 19 Oct 1940	Capt.	Capt.	TORIGOE, Shinichi
19 Oct 1940 to 1 Sept 1941	Cmdr.	Capt.	TAKATSUKA, Tadao
1 Sept 1941 to 15 July 1943	R. Adm.	V. Adm.	SAKONJU, Naomasa
15 July 1943 to 20 Sept 1944	Capt.	R. Adm.	OGURA, Naoji
20 Sept 1944 to present	R. Adm.	R. Adm.	SATŌ, Katsumari

ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO THAILAND

15 Mar 1941 to 13 Nov 1941	Lt. Cmdr.	Cmdr.	SHINODA, Kenichi
1 Sept 1941 to 2 Mar 1942	Cmdr.	Capt.	TAKATSUKA, Tadao
2 Mar 1942 to 15 Oct 1942	Lt. Cmdr.	Capt.	KOSHIBA, Naotada
15 Nov 1942 to present	Lt. Cmdr.	Cmdr.	INAMI, Takao

NAVAL ATTACHE TO BURMA

6 Aug 1943 to 1 Mar 1945	Capt.	R. Adm.	NAKADŌ, Kankei
14 Apr 1945 to present	R. Adm.	R. Adm.	SATŌ, Katsunari

ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO BURMA

Term of Service	Rank at that time	Present rank	Name
14 Apr 1945 to present	Cmdr.	Cmdr.	INAMI, Takao

NAVAL ATTACHE TO ARGENTINA

15 Nov 1935 to 1 Oct 1938	Cmdr.	R.Adm.	HANADA, Yukitake
1 Oct 1938 to 19 July 1941	Cmdr.	Capt.	SHIGEHIRO, Tokuo
19 July 1941 to present	R.Adm.	R.Adm.	YUKISHITA, Katsumi

ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO ARGENTINA

20 Dec 1940 to present	Lt.Cmdr.	Cmdr.	TATSUTA, Masashi
------------------------	----------	-------	------------------

NAVAL ATTACHE TO BRAZIL

15 Nov 1935 to 1 Oct 1938	Cmdr.	R.Adm.	HANADA, Yukitake
1 Oct 1938 to 26 Oct 1942	Cmdr.	Capt.	SHIGEHIRO, Tokuo

ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO BRAZIL

20 Dec 1940 to 11 Aug 1941	Lt.Cmdr.	Cmdr.	TATSUTA, Masashi
11 Aug 1941 to 5 May 1942	Lt.Cmdr.	Cmdr.	NAKAYAMA, Sadayoshi

NAVAL ATTACHE TO CHILE

15 Nov 1935 to 1 Oct 1938	Cmdr.	R.Adm.	HANADA, Yukitake
1 Oct 1938 to 19 July 1941	Cmdr.	Capt.	SHIGEHIRO, Tokuo
19 July 1941 to 5 May 1942	R.Adm.	R.ADM.	YUKISHITA, Katsumi
5 May 1942 to 25 Nov 1943	Lt.Cmdr.	Cmdr.	NAKAYAMA, Sadayoshi

ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO CHILE

20 Dec 1940 to present	Lt.Cmdr.	Cmdr.	TATSUTA, Masashi
------------------------	----------	-------	------------------

NAVAL ATTACHE TO PERU

19 June 1941 to 26 Aug 1942	Cmdr.	Capt.	SHIGEHIRO, Tokuo
-----------------------------	-------	-------	------------------

ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO PERU

Term of Service	Rank at that time	Present rank	Name
20 Dec 1940 to 11 Aug 1941	Lt. Cmdr.	Cmdr.	TATSUTA, Masashi
11 Aug 1941 to 5 May 1942	Lt. Cmdr.	Cmdr.	NAKAYAMA, Sadayoshi

NAVAL ATTACHE TO CHINA

1 Dec 1936 to 25 Apr 1938	R. Adm.	R. Adm.	HONDA, Tadao
25 Apr 1938 to 26 Oct 1939	R. Adm.	Adm.	NOMURA, Naokuni
26 Oct 1939 to 15 Oct 1940	R. Adm.	V. Adm.	IWAMURA, Seiichi
15 Oct 1940 to 15 Oct 1941	R. Adm.	V. Adm.	KANAZAWA, Nasao
15 Oct 1941 to 1 Feb 1943	R. Adm.	V. Adm.	YOTANI, Seishi
1 Feb 1943 to 4 Jan 1944	R. Adm.	V. Adm.	MAEDA, Minoru
4 Jan 1944 to 20 July 1944	R. Adm.	R. Adm.	NAKAMURA, Katsuhira
20 July 1944 to 10 Feb 1945	V. Adm.	V. Adm.	MAEDA, Minoru
10 Feb 1945 to present	R. Adm.	R. Adm.	KOGAWA, Kanji

ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO CHINA

23 Jan 1937 to 8 Dec 1937	Cmdr.	Capt.	KOBETTŌ, Sozō
8 Dec 1937 to 15 Nov 1940	Cmdr.	Capt.	KUWAHARA, Shigetō
15 Nov 1940 to 28 Dec 1942	Cmdr.	Capt.	OKINO, Matao
18 Jan 1941 to 5 Feb 1941	Cmdr.	Capt.	KAKUDA, Takao (KIA)
8 Jan 1941 to 20 Nov 1941	Lt. Cmdr.	Cmdr.	TANIOKA, Heihachirō
20 Nov 1941 to 1 Feb 1943	Lt. Cmdr.	Cmdr.	AKAGI, Toshio
6 Jan 1943 to 1 Oct 1944	Cmdr.	Capt.	KOSHIBA, Naotada
1 Feb 1943 to 29 Oct 1943	Lt. Cmdr.	Cmdr.	TEJIMA, Takeo
20 Feb 1943 to 7 Feb 1944	Capt.	Capt.	KITaura, Toyō
1 Oct 1944 to present	Cmdr.	Capt.	HONDA, Masakuma
7 Feb 1944 to present	Capt.	Capt.	KAWASE, Kaoru

NAVAL ATTACHE TO ENGLAND

Term of Service	Rank at that time	Present rank	Name
1 Dec 1936 to 10 Feb 1939	Capt.	V. Adm.	YANO, Hideo
10 Feb 1939 to 26 Aug 1941	Capt.	V. Adm.	KONDŌ, Taiichirō

ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO ENGLAND

1 Feb 1937 to 15 Dec 1938	Lt. Cmdr.	Cmdr.	SUZUKI, Tsuyotoshi (KIA)
25 May 1937 to 1 Mar 1938	Cmdr.	Capt.	Sato, Jisaburō
1 Mar 1938 to 15 Mar 1939	Cmdr.	Capt.	ASHINA, Saburō
15 Dec 1938 to 1 Sept 1940	Lt. Cmdr.	Capt.	MOTODA, Minoru
15 Mar 1939 to 1 Oct 1939	Lt. Cmdr.	Capt.	MATSUNAGA, Keisuke
1 Dec 1939 to 25 Jan 1941	Cmdr.	Capt.	YOSHII, Michinori
1 Sept 1940 to 5 Oct 1942	Cmdr.	Capt.	ASADA, Shiroku

NAVAL ATTACHE TO GERMANY

1 Feb 1936 to 24 Dec 1938	Comdr.	R. Adm.	KOJIMA, Hideo
24 Dec 1938 to 2 Sept 1940	R. Adm.	Adm.	Endō, Kiichi
2 Sept 1940 to 20 Aug 1943	Capt.	R. Adm.	YOKOI, Tadao
1 Sept 1943 to present	R. Adm.	R. Adm.	KOJIMA, Hideo

ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO GERMANY

15 Oct 1935 to 1 Nov 1937	Lt. Cmdr.	Capt.	YAMAOKA, Mineo
1 May 1937 to 1 Mar 1938	Lt. Cmdr.	Capt.	YAMAMOTO, Kakuji (KIA)
1 Nov 1937 to 20 Sept 1939	Lt. Cmdr.	Capt.	KIKUOKA, Tokujirō
1 Mar 1938 to 1 Apr 1939	Lt. Cmdr.	Capt.	ICHIKAWA, Yoshimori
1 Apr 1939 to 1 May 1940	Lt. Cmdr.	Capt.	MATSUMOTO, Sakuji (deceased)
20 Sept 1939 to 15 Nov 1940	Lt. Cmdr.	Cmdr.	MUROI, Suteji (KIA)
20 June 1939 to 1 Feb 1940	Cmdr.	Capt.	SUZUKI, Mitsunobu

Term of Service	Rank at that time	Present rank	Name
1 May 1940 to present	Cmdr.	Capt.	TANIGUCHI, Yasumaro
25 Nov 1940 to present	Cmdr.	Capt.	TOYODA, Kumao
15 Sept 1941 to 14 Feb 1942	Lt.Cmdr.	Capt.	MISHINA, Iori
15 Oct 1944 to present	Lt.Cmdr.	Cmdr.	FUJIMURA, Giichi
21 Jul 1944 to 1 Apr 1945	Capt.	Capt.	ŌGI, Kazunori
NAVAL ATTACHE TO ITALY			
1 June 1936 to 7 Feb 1940	Cmdr.	R.Adm.	HIRAIDE, Hideo
7 Feb 1940 to 5 June 1944	Cmdr.	Capt.	MITSunobe, Tōyō (KIA)
5 June 1944 to 20 Sept 1944	Cmdr.	Cmdr.	YAMANAKA, Dengo
20 Sept 1944 to present	V.Adm.	V.Adm.	ABE, Katsuo
ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO ITALY			
10 Dec 1938 to 10 May 1940	Cmdr.	Cmdr.	TAMURA, Hisazo
5 Nov 1940 to 5 June 1944	Lt.Cmdr.	Cmdr.	YAMANAKA, Dengo
20 Sept 1944 to present	Lt.Cmdr.	Cmdr.	YAMANAKA, Dengo
NAVAL ATTACHE TO FRANCE			
1 July 1935 to 15 Nov 1937	Cmdr.	V.Adm.	YAMADA, Sadayoshi
15 Nov 1937 to 1 Dec 1939	Cmdr.	R.Adm.	SUMIKAWA, Michio
1 Dec 1939 to 1 Mar 1943	Cmdr.	R.Adm.	HOSOTANI, Tadayoshi
ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO FRANCE			
5 Sept 1936 to 25 Aug 1937	Lt.Cmdr.	Capt.	HANADA, Takuo
25 Aug 1937 to 1 Oct 1938	Lt.Cmdr.	Capt.	NAGAI, Yoshitaka
1 Oct 1938 to 15 Jan 1940	Lt.Cmdr.	Capt.	GOTŌ, Saneji
15 Jan 1940 to 20 May 1941	Cmdr.	Capt.	ENOO, Yoshio
1 Oct 1940 to 14 Feb 1942	Cmdr.	Capt.	MISHINA, Iori
20 May 1941 to 5 May 1942	Lt.Cmdr.	Cmdr.	ŌISHI, Sōji

Term of Service	Rank at that time	Present rank	Name
5 May 1944 to present	Lt. Cmdr.	Cmdr.	FUJIMURA, Giichi
NAVAL ATTACHE TO SWEDEN			
14 July 1942 to 1 Apr 1945	Lt. Cmdr.	Capt.	MISHINA, Iori
1 Apr 1945 to present	Capt.	Capt.	OGI, Kazunori
ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO SWEDEN			
1 Apr 1945 to present	Cmdr.	Capt.	MISHINA, Iori
NAVAL ATTACHE TO HOLLAND			
1 Feb 1936 to 1 June 1938	Cmdr.	R. Adm.	KOJIMA, Hideo
1 June 1938 to 8 Jan 1940	Lt. Cmdr.	Capt.	WATANAGI, Morisada
8 Jan 1940 to 27 Aug 1941	Cmdr.	R. Adm.	MAEDA, Kiyoshi
ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO FINLAND			
10 Jan 1941 to 17 Apr 1941	Lt. Cmdr.	Capt.	EGUCHI, Hozumi (KIA)
17 Apr 1941 to 21 July 1941	Lt.	Cmdr.	HAYAMA, Tatei
15 Aug 1941 to 5 June 1944	Lt. Cmdr.	Cmdr.	FUJIMURA, Giichi
NAVAL ATTACHE TO RUSSIA			
25 Apr 1936 to 20 March 1939	Cmdr.	R. Adm.	KAWABATA, Shōji
11 July 1938 to 14 Nov 1938	Capt.	V. Adm.	MAEDA, Minoru
20 Mar 1939 to 14 Sept 1940	Capt.	R. Adm.	ISHII, Noriyuki
14 Sept 1940 to 20 Dec 1943	Cmdr.	Capt.	YAMAGUCHI, Suteji
20 Dec 1943 to present	Cmdr.	Capt.	USUI, Yoshiō
ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO RUSSIA			
20 Nov 1935 to 4 Jan 1938	Lt.	Cmdr.	OKAZAKI, Zenkichi
4 Jan 1938 to 15 Apr 1940	Lt. Cmdr.	Capt.	USUI, Yoshiō
15 Apr 1940 to 17 Apr 1941	Lt. Cmdr.	Capt.	EGUCHI, Hozumi (KIA)

Term of Service	Rank at that time	Present rank	Name
17 Apr 1941 to 15 May 1943	Lt.	Cmdr.	HAYAMA, Tatei
20 Oct 1943 to present	Lt.	Lt.Cmdr.	SAWADA, Takao
NAVAL ATTACHE TO SPAIN			
1 Sept 1943 to present	Cmdr.	Capt.	MUCHAKU, Semmei
ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO SPAIN			
5 June 1944 to present	Cmdr.	Cmdr.	ŌISHI, Sōji
NAVAL ATTACHE TO TURKEY			
15 Nov 1938 to 13 Feb 1940	Cmdr.	Capt.	ISHIKAWA, Makoto
13 Feb 1940 to 20 Jan 1945	Cmdr.	Capt.	MATSUBARA, Akio
ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO TURKEY			
14 Feb 1942 to 1 Mar 1943	Cmdr.	Capt.	TSUKUDA, Osamu
NAVAL ATTACHE TO PORTUGAL			
10 Sept 1943 to 5 June 1944	Cmdr.	Cmdr.	ŌISHI, Sōji
5 June 1944 to present	Cmdr.	Capt.	MUCHAKU, Semmei
ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO PORTUGAL			
20 Sept 1944 to present	Cmdr.	Cmdr.	INOUE, Kenzō
NAVAL ATTACHE TO MANCHUKUO			
1 Jul 1936 to 1 Nov 1937	Capt.	V.Adm.	SUZUKI, Yoshio (KIA)
1 Nov 1937 to 10 Jan 1939	Capt.	V.Adm.	SHIROTANI, Seishi
10 Jan 1939 to 2 Oct 1939	R.Adm.	V.Adm.	TAYUI, Yutaka
2 Oct 1939 to 14 Nov 1940	R.Adm.	V.Adm.	KŌRI, Eisaburō
15 Nov 1940 to 15 Oct 1941	R.Adm.	R.Adm.	YAMADA, Mitsuru
15 Nov 1941 to 21 Dec 1942	R.Adm.	V.Adm.	MATSUNAGA, Jirō
21 Dec 1942 to present	R.Adm.	V.Adm.	MARUSHIGE, Kuninori

Term of Service	Rank at that time	Present rank	Name
ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO MANCHUKUO			
15 Nov 1938 to 15 Dec 1938	Cmdr.	R.Adm.	NAKAOKA, Nobuyoshi (KIA)
15 Nov 1938 to 10 Jul 1940	Lt.Cmdr.	Capt.	MURAI, Sadanori (KIA)
5 Dec 1938 to 15 Nov 1939	Cmdr.	R.Adm.	ŌTA, Nobunosuke (KIA)
10 Jul 1940 to 1 Sept 1941	Cmdr.	R.Adm.	YAMADA, Takeji (KIA)
1 Sept 1941 to 15 Dec 1942	Cmdr.	Capt.	MUDACHI, Takeshi
15 Nov 1942 to 10 Feb 1944	Lt.Cmdr.	Cmdr.	YOSHIDA, Takeshi
24 Dec 1942 to present	Cmdr.	Capt.	KAJIKI, Kikuo
4 Mar 1944 to 5 Feb 1945	Lt.Cmdr.	Cmdr.	KOGAWA, Yoshio
10 Jan 1945 to present	Capt.	Capt.	KAWANO, Michitoshi
5 Feb 1945 to present	Cmdr.	Cmdr.	MIURA, Mitsuo

NAVAL ATTACHE TO RUMANIA

15 Feb 1938 to 1 Feb 1940	Cmdr.	Capt.	ISHIKAWA, Makoto
1 Feb 1940 to 15 Jan 1941	Cmdr.	Capt.	SUZUKI, Mitsunobu
15 Jan 1941 to 5 May 1942	Cmdr.	Capt.	MATSUBARA, Akio
5 May 1942 to 5 Jun 1943	Cmdr.	Capt.	YOSHITOSHI, Tadachi
5 June 1943 to 20 Jun 1945	Cmdr.	Capt.	MATSUBARA, Akio

NAVAL ATTACHE TO BULGARIA

16 Jan 1940 to 13 Feb 1940	Cmdr.	Capt.	ISHIKAWA, Makoto
----------------------------	-------	-------	------------------

NAVAL ATTACHE TO MEXICO

15 May 1941 to 20 Aug 1942	Capt.	R.Adm.	HAMANAKA, Masasuke
----------------------------	-------	--------	--------------------

NAVAL ATTACHE TO COLOMBIA

19 Jul 1941 to 20 Aug 1942	Capt.	R.Adm.	HAMANAKA, Masasuke
----------------------------	-------	--------	--------------------

ASSISTANT NAVAL ATTACHE TO COLOMBIA

19 Jul 1941 to 26 Aug 1942	Lt.Cmdr.	Capt.	WACHI, Tsunezō
----------------------------	----------	-------	----------------

(Attache) Officers of Ammunition (Aides) Corresponding Officers & some

任期	官	氏名
自一八八〇至一八八二	大佐	小林謙五
自一八八二至一八八四	中將	小川貫重
自一八八四至一八八六	少將	横小一郎

任期	官	氏名
自一八八〇至一八八二	大佐	横小一郎
自一八八二至一八八四	中將	小川貫重
自一八八四至一八八六	少將	横小一郎

力ナダ武官

同輔佐官

(Aides) Corresponding Officers & some

任期	官	氏名
自一八八〇至一八八二	大佐	志岐常雄
自一八八二至一八八四	中將	田村三郎
自一八八四至一八八六	少將	田口大郎

同輔佐官

任期	官	氏名
自一八八〇至一八八二	中佐	竹内馨
自一八八二至一八八四	少將	山路一行
自一八八四至一八八六	大佐	山路一行

任期	官	氏名
自一八八〇至一八八二	中佐	山路一行
自一八八二至一八八四	少將	山路一行
自一八八四至一八八六	大佐	山路一行

任期	官	氏名
自一八八〇至一八八二	中佐	中堂親忠
自一八八二至一八八四	大佐	鳥越新一
自一八八四至一八八六	少將	高塚忠夫

任期	官	氏名
自一八八〇至一八八二	中佐	篠田憲一
自一八八二至一八八四	大佐	高塚忠夫
自一八八四至一八八六	少將	高塚忠夫

比律賓武官

同輔佐官

Atake & Aides

自一八八六
 至二〇〇四
 現 二〇〇四
 少大
 將佐
 少將
 中堂親忠
 佐藤勝也

自一〇二一
 至一〇二一
 現 一〇二一
 少中
 將佐
 少將
 大佐
 花田行武
 重廣篤雄
 雪下勝美

自一〇二一
 至一〇二一
 現 一〇二一
 少中
 將佐
 少將
 大佐
 花田行武
 重廣篤雄

自一〇二一
 至一〇二一
 現 一〇二一
 少中
 將佐
 少將
 大佐
 花田行武
 重廣篤雄

自一八二五
 至一八二五
 現 一八二五
 少佐
 中佐
 中山定義

自一八二五
 至一八二五
 現 一八二五
 少將
 中將
 少將
 大將
 本田忠雄
 野村直邦
 志村清一
 金澤正夫
 代谷清志
 前田裕平
 中村裕平
 前田裕平
 小川貫壘

自二〇〇四
 至二〇〇四
 現 二〇〇四
 中輔佐官
 佐
 中佐
 稻見高男

自一〇二一
 至一〇二一
 現 一〇二一
 少輔佐官
 佐
 中佐
 龜田正

自一〇二一
 至一〇二一
 現 一〇二一
 少輔佐官
 佐
 中佐
 龜田正

自一〇二一
 至一〇二一
 現 一〇二一
 少輔佐官
 佐
 中佐
 龜田正

自一八二五
 至一八二五
 現 一八二五
 少輔佐官
 佐
 中佐
 龜田正

自一八二五
 至一八二五
 現 一八二五
 中輔佐官
 佐
 大佐
 小別當惣三
 桑原重遠
 神野赤男
 南田隆男
 谷岡平八郎
 赤木敏郎
 小柴直負
 牛島勇雄
 北浦豊男
 本田勝雄

至 現	至 一 九	至 一 九	至 一 五	至 一 六
九	六	五	七	一
〇	五	〇	〇	〇
中	中	中	中	中
將	佐	佐	佐	佐
中	中	大	少	少
將	佐	佐	將	將
阿	山	光	平	英
部	仲	延	出	夫
勝	傳	東	英	夫
雄	吾	洋	夫	夫

伊國武官

至 現	至 一 九	至 一 九	至 一 五	至 一 五	至 一 三	至 一 三
九	六	二	五	三	三	〇
〇	五	五	〇	〇	〇	〇
"	少	中	輔	輔	佐	佐
"	佐	佐	佐	佐	佐	佐
"	"	中	官	官	官	官
山	山	田	田	村	久	三
神	仲	村	久	三	三	三
傳	傳	久	三	三	三	三
吾	吾	三	三	三	三	三

至 一 九	至 一 七	至 一 七	至 一 九	至 一 五	至 一 五	至 一 四	至 一 四	至 一 四	至 一 四
〇	七	〇	九	五	五	六	六	九	九
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大	"	少	"	"	中	"	"	中	"
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
大	中	"	"	"	大	中	中	佐	佐
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
角	藤	三	豐	淡	鈴	室	室	井	松
一	村	品	田	口	木	井	井	松	松
登	義	伴	隈	恭	光	松	松	松	松
一	一	織	雄	摩	信	松	松	松	松

至 現	至 一 八	至 一 五	至 一 三	至 一 三
九	六	九	九	六
〇	〇	〇	〇	〇
少	大	少	中	中
將	佐	將	佐	佐
"	少	大	少	少
"	將	將	將	將
小	橫	遠	小	小
島	井	藤	島	島
秀	志	喜	秀	秀
雄	雄	雄	雄	雄

獨國武官

至 一 五	至 一 四	至 一 四	至 一 三	至 一 三	至 一 三	至 一 〇	至 一 〇	至 一 〇	至 一 〇
五	四	三	九	二	三	五	六	六	六
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
"	"	"	"	"	少	輔	輔	佐	佐
"	"	"	"	"	佐	佐	佐	佐	佐
"	"	"	"	"	大	大	大	大	大
"	"	"	"	"	佐	佐	佐	佐	佐
松	市	菊	山	小	小	周	三	子	夫
木	川	國	本	周	周	三	子	子	夫
作	義	德	裕	三	三	子	子	子	夫
次	守	次	二	夫	夫	夫	夫	夫	夫

至 一 七	至 一 五	至 一 四	至 一 四	至 一 三	至 一 三	至 一 三	至 一 三	至 一 三	至 一 三
五	九	六	三	〇	三	三	三	三	三
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
"	中	"	少	"	中	少	少	少	少
"	佐	"	佐	"	佐	佐	佐	佐	佐
"	"	"	"	"	大	中	佐	佐	佐
"	"	"	"	"	佐	佐	佐	佐	佐
朝	吉	松	原	葦	鈴	木	剛	敏	敏
田	井	永	田	名	木	剛	敏	敏	敏
輝	道	敬	實	三	剛	敏	敏	敏	敏
大	教	介	資	郎	敏	敏	敏	敏	敏

至 一 六	至 一 三	至 一 三	至 一 三	至 一 三
六	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇
"	大	"	佐	國
"	"	"	中	武
"	"	"	將	武
近	矢	野	英	官
藤	野	英	雄	官
泰	英	雄	雄	官
一	雄	雄	雄	官
郎	雄	雄	雄	官

英國武官

至 一 九	至 一 三	至 一 三	至 一 三	至 一 三
〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇
"	大	"	佐	"
"	"	"	"	"
"	"	"	"	"
川	瀨	美	美	美
瀨	美	美	美	美
美	美	美	美	美
美	美	美	美	美

佛國武官
 至自 至自 至自 至自 至自 至自
 現 八 一 二 三 四 五
 至 三 二 一 〇 九 八
 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 " " 中 佐
 " 少 中 將
 細谷資芳(鐵) 澄川通男 山田定義

瑞興武官
 至自 至自 至自 至自 至自 至自
 現 〇 一 二 三 四 五
 至 五 四 三 二 一 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 大 少 佐 佐
 " 大 佐
 扇 三品 伴 織 登

初蘭武官
 至自 至自 至自 至自 至自 至自
 現 一 二 三 四 五 六
 至 六 五 四 三 二 一
 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 中 少 中 佐
 佐 佐 佐
 少 大 少 將
 前 渡 小 官
 田 名 島 善 精 守 定 雄

芬蘭武官
 至自 至自 至自 至自 至自 至自
 現 一 二 三 四 五 六
 至 六 五 四 三 二 一
 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 中 少 大 中 大 中 佐
 佐 將 佐 佐 佐 佐
 大 " 少 大 " 少 將
 佐 將 佐 佐 佐 佐
 三 小 橫 小 石 川
 品 島 井 井 井 烟
 伴 秀 忠 檢 敬 正
 織 雄 雄 次 之 治

露國武官
 至自 至自 至自 至自 至自 至自
 現 一 二 三 四 五 六
 至 六 五 四 三 二 一
 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 " 中 " 大 中
 佐 佐 佐 佐
 " 大 少 中 少
 佐 將 將 將
 臼 山 石 前 川
 井 口 井 田 烟
 淑 檢 敬 之 王
 郎 次 之 總 治

西國武官
 至自 至自 至自 至自 至自 至自
 現 一 二 三 四 五 六
 至 六 五 四 三 二 一
 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 中 佐
 大 佐
 無 着 仙 明

同輔佐官
 至自 至自 至自 至自 至自 至自
 現 一 二 三 四 五 六
 至 六 五 四 三 二 一
 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 " 少 " 中 " " 少
 佐 佐 佐 佐
 " 中 " " " 大
 佐 佐 佐 佐
 藤 大 三 櫻 後 長 花
 村 石 品 尾 藤 井 田
 義 宗 伴 義 實 純 卓
 一 次 織 男 二 隆 夫

同輔佐官
 至自 至自 至自 至自 至自 至自
 現 〇 一 二 三 四 五
 至 五 四 三 二 一 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 中 輔 佐
 佐 佐
 大 佐
 三 品 伴 織

同輔佐官
 至自 至自 至自 至自 至自 至自
 現 一 二 三 四 五 六
 至 六 五 四 三 二 一
 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 少 大 少
 佐 尉 佐
 " 中 大
 佐 佐 佐
 藤 麓 江
 村 多 口
 義 禎 穂
 一 禎 積

同輔佐官
 至自 至自 至自 至自 至自 至自
 現 一 二 三 四 五 六
 至 六 五 四 三 二 一
 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 " 大 " 少 大
 尉 佐 尉 佐
 少 中 " 大 中
 佐 佐 佐 佐
 澤 麓 江 臼 岡
 田 多 口 井 崎
 孝 禎 穂 淑 喜
 夫 禎 積 郎 吉
 (鐵)

同輔佐官
 至自 至自 至自 至自 至自 至自
 現 一 二 三 四 五 六
 至 六 五 四 三 二 一
 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 中 佐
 中 佐
 大 佐
 石 宗 次

自一五三、二一五
至二〇、六一〇
土國
中佐武官
石川信
松原明夫

自一八九、一〇五
至一九、六一〇
中國武官
大石宗次
無着仙明

自一〇二、二一六
至一〇、一一〇
滿洲國武官
大佐
中將
鈴木義虎(戦死)
代谷清志
田結穰
桑折英三郎
山田滿
松永次郎
北茂邦則

自一八三、二一四
至一八、三二〇
同
中佐武官
築田俊

自一九、九一〇
至現
同
中佐武官
井上健三

自一〇三、二一五
至一〇、一一〇
同
中佐武官
中田信喜(戦死)
村井貞敏(戦死)
太田信之輔(戦死)
山田武次(戦死)
鮮立毅
吉田毅
加藤水喜久雄
小川好雄

自一五三、二一五
至一五、六一〇
ブルガリヤ武官
中佐
大佐
石川信
鈴木光博
松原明夫
吉利貞
松原明夫

自一〇三、二一五
至一〇、一一〇
同
中佐武官
河野通俊
三浦光雄

自一五三、二一五
至一五、六一〇
メキシコ武官
中佐
大佐
石川信

自一〇三、二一五
至一〇、一一〇
同
中佐武官

自一八五、二一五
至一八、六一〇
フロンビヤ武官
大佐
少将
中佐

自一〇三、二一五
至一〇、一一〇
同
中佐武官

自一〇二、二一六
至一〇、一一〇
大佐
少将
中佐

自一〇三、二一五
至一〇、一一〇
同
中佐武官
和智恒藏

米國武官

任期	當時官	現官	氏名
自一八八八 至一八八八	大佐	中將	小林謙五
自一八八八 至一八八八	"	少將	小川貫重
自一八八八 至一八八八	中佐	"	横小一郎

同輔佐官

任期	當時官	現官	氏名
自一八八八 至一八八八	少佐	少將	三浦艦三
自一八八八 至一八八八	"	大佐	志岐常雄
自一八八八 至一八八八	"	"	田村三郎
自一八八八 至一八八八	中佐	"	田口大郎
自一八八八 至一八八八	大佐	"	無着仙明
自一八八八 至一八八八	"	中佐	木阪義胤
自一八八八 至一八八八	"	大佐	寺井義守
自一八八八 至一八八八	大佐	大佐	實松謙

力ナダ武官

自一八八八 至一八八八	中佐	少將	濱中匡南
自一八八八 至一八八八	大佐	"	佐藤勝也

同輔佐官

自一八八八 至一八八八	少佐	大佐	初智恒藏
----------------	----	----	------

比律賓武官

自一八八八 至一八八八	大佐	少將	石畑四郎
自一八八八 至一八八八	"	大佐	間直顯
自一八八八 至一八八八	少將	少將	平出英夫

同輔佐官

自一八八八 至一八八八	中佐	大佐	花岡雄二
自一八八八 至一八八八	少佐	中佐	山本繁一

泰國武官

自一八八八 至一八八八	中佐	少將	中堂觀忠
自一八八八 至一八八八	大佐	大佐	鳥越新一
自一八八八 至一八八八	中佐	大佐	高塚忠夫
自一八八八 至一八八八	少將	少將	左近允尚正
自一八八八 至一八八八	大佐	少將	小倉真二
自一八八八 至一八八八	少將	少將	佐藤勝也

同輔佐官

自一八八八 至一八八八	中佐	中佐	篠田憲一
自一八八八 至一八八八	大佐	大佐	高塚忠夫
自一八八八 至一八八八	"	中佐	小柴直貞
自一八八八 至一八八八	中佐	中佐	稻見高男

自一八八六
至二〇〇四
現 女 一四
少大
將佐
少將
中堂親忠
佐藤勝也

自一〇一六
至一〇一五
現 一五
少中
將佐
少將
花田行武
重廣篤雄
雪下勝美

自一〇一五
至一〇一五
現 一五
少中
將佐
少將
花田行武
重廣篤雄

自一〇一五
至一〇一五
現 一五
少中
將佐
少將
花田行武
重廣篤雄

自一八二五
至一八二五
現 一五
少中
將佐
少將
花田行武
重廣篤雄

自一八二五
至一八二五
現 一五
少中
將佐
少將
花田行武
重廣篤雄

自一三三三
至一三三三
現 一五
少中
將佐
少將
花田行武
重廣篤雄

自二〇〇四
至二〇〇四
現 一四
中佐
中佐
稻見高男

自一五二〇
至一五二〇
現 一五
少佐
中佐
龜田正

自一五二〇
至一五二〇
現 一五
少佐
中佐
龜田正

自一五二〇
至一五二〇
現 一五
少佐
中佐
龜田正

自一五二〇
至一五二〇
現 一五
少佐
中佐
龜田正

自一三三三
至一三三三
現 一五
中佐
大佐
小別當惣三
桑原重遠
神野亦男
南田隆男
谷岡平八郎
赤木敏郎
小柴直負
牛島勇雄
北浦量男
本田勝雄

緬甸武官

亞國武官

伯國武官

智利武官

同輔佐官

同輔佐官

同輔佐官

中華民國武官

同輔佐官

至 現	至 一 九	至 一 九	至 一 五	至 一 二	至 一 六	至 一 七	至 一 一
五	九	六	五	七	一	一	一
中	中	中	中	中	中	中	中
將	將	將	將	將	將	將	將
中	中	大	少	少	少	少	少
將	佐	佐	將	將	將	將	將
阿	山	光	平	平	平	平	平
部	仲	延	出	出	出	出	出
勝	傳	東	英	英	英	英	英
雄	吾	洋	決	決	決	決	決

至 現	至 一 九	至 一 九	至 一 五	至 一 二	至 一 六	至 一 七	至 一 一
五	九	六	五	七	一	一	一
少	少	中	中	中	中	中	中
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
中	中	中	中	中	中	中	中
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
山	山	田	田	田	田	田	田
神	仲	村	村	村	村	村	村
傳	傳	久	久	久	久	久	久
吾	吾	三	三	三	三	三	三

至 現	至 一 九	至 一 九	至 一 五	至 一 二	至 一 六	至 一 七	至 一 一
四	七	七	六	九	二	二	二
大	少	少	少	少	少	少	少
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
大	中	中	中	中	中	中	中
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
扇	藤	三	豐	淡	鈴	室	室
一	村	品	田	口	木	井	井
登	一	伴	限	泰	光	捨	捨
一	織	難	摩	信	信	信	信

至 現	至 一 六	至 一 五	至 一 五	至 一 三	至 一 二	至 一 一	至 一 一
九	八	九	九	九	九	九	九
少	大	少	中	中	中	中	中
將	將	將	將	將	將	將	將
小	橫	遠	小	小	小	小	小
島	井	藤	島	島	島	島	島
秀	忠	喜	秀	秀	秀	秀	秀
雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄

至 一	至 一	至 一	至 一	至 一	至 一	至 一	至 一
五	四	三	九	二	三	五	一
少	少	少	少	少	少	少	少
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
大	大	大	大	大	大	大	大
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
松	市	菊	山	山	山	山	山
本	川	田	本	本	本	本	本
作	義	德	裕	裕	裕	裕	裕
次	次	次	二	二	二	二	二
(戰)	(戰)	(戰)	(戰)	(戰)	(戰)	(戰)	(戰)

至 一	至 一	至 一	至 一	至 一	至 一	至 一	至 一
七	五	四	四	五	九	三	五
中	少	少	中	中	中	中	中
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
中	中	中	中	中	中	中	中
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
朝	吉	松	源	葺	鈴	鈴	鈴
田	井	永	田	名	木	木	木
輝	道	敬	實	三	剛	剛	剛
大	教	介	實	郎	敏	敏	敏
(戰)	(戰)	(戰)	(戰)	(戰)	(戰)	(戰)	(戰)

至 一	至 一	至 一	至 一	至 一	至 一	至 一	至 一
六	五	三	一	一	一	一	一
大	大	大	大	大	大	大	大
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
中	中	中	中	中	中	中	中
將	將	將	將	將	將	將	將
近	矢	矢	近	近	近	近	近
藤	野	野	藤	藤	藤	藤	藤
泰	英	英	泰	泰	泰	泰	泰
一	雄	雄	一	一	一	一	一
郎	(戰)	(戰)	郎	郎	郎	郎	郎

至 一	至 一	至 一	至 一	至 一	至 一	至 一	至 一
現	二	二	二	二	二	二	二
大	大	大	大	大	大	大	大
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
川	川	川	川	川	川	川	川
瀨	瀨	瀨	瀨	瀨	瀨	瀨	瀨
兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼

佛國武官
 至自 至自 至自 至自 至自
 現 一八 一四 一三 一三 一五
 五 三 一 一 一 一
 中 佐
 少 將
 山 田 定 義
 澄 川 道 男
 細 谷 資 芳 (戰死)

瑞典武官
 至自 至自
 現 一八 一四
 五 三 一 一
 大 少
 佐 佐
 三 品 伊 織
 扇 一 登

荷蘭武官
 至自 至自 至自
 現 一八 一五 一三
 五 三 一 一
 中 少 中
 佐 佐 佐
 少 大 少
 將 佐 將
 小 島 秀 雄
 渡 名 喜 守 定
 前 田 精

芬蘭武官
 至自 至自 至自 至自 至自
 現 一八 一八 一六 一五 一四
 五 三 一 一 一
 中 少 大 中 大 中
 佐 將 佐 佐 佐 佐
 大 少 大 少
 佐 將 佐 將
 川 烟 正 治
 石 井 敬 之
 小 島 秀 雄
 三 品 伊 織

露國武官
 至自 至自 至自 至自 至自
 現 一八 一八 一五 一四 一三
 五 三 一 一 一
 中 大 中
 佐 佐 佐
 大 少 中 少
 佐 將 將 將
 川 烟 正 治
 前 田 敬 之
 石 井 敬 之
 山 口 槍 次
 白 井 淑 郎

西國武官
 至自 至自
 現 一八 一五
 五 三 一 一
 中 大
 佐 佐
 無 着 仙 明

同 輔佐官
 至自 至自 至自 至自 至自
 現 一八 一五 一三 一三 一五
 五 三 一 一 一
 " 少 " 中 " " 火
 佐 佐 佐 佐 佐 佐
 花 田 卓 夫
 長 井 純 隆
 後 藤 實 二
 榎 尾 義 男
 三 品 伊 織
 大 石 宗 次
 藤 村 義 一

同 輔佐官
 至自 至自
 現 一八 一四
 五 三 一 一
 中 輔
 佐 佐
 大 佐
 三 品 伊 織

同 輔佐官
 至自 至自 至自 至自
 現 一八 一六 一六 一五
 五 三 一 一 一
 少 大 少
 佐 尉 佐
 " 中 大
 佐 佐 佐
 江 口 穂 積 (戰死)
 麓 多 禎 (戰死)
 藤 村 義 一

同 輔佐官
 至自 至自 至自 至自 至自
 現 一八 一八 一五 一四 一三
 五 三 一 一 一
 " 大 " 少 大
 尉 佐 尉 佐
 中 大 中
 佐 佐 佐 佐
 岡 崎 善 吉
 白 井 淑 郎
 江 口 穂 積 (戰死)
 麓 多 禎 (戰死)
 澤 田 宗 次

同 輔佐官
 至自 至自
 現 一八 一五
 五 三 一 一
 中 輔
 佐 佐
 大 佐
 大 石 宗 次

至自一五、二一五
至自一五、二一五
至自二、一、二〇

國武官
中佐大佐
石川信
松原明夫

至自一八、九、五
至自一八、九、五

中國武官
中佐大佐
大石宗次
無着仙明

至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一

滿洲國武官
大佐中佐
鈴木義尾
代谷清志
田結穰
桑折英三郎
小田滿
松永次郎
丸茂邦則

至自一八、九、一〇
至自一八、九、一〇

同
中佐大佐
築田收

至自現、九、一〇
至自現、九、一〇

同
中佐
井上健三

至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一

同
中佐大佐
中佐大佐
小川好雄
加藤水喜久雄
吉田毅
山田武次
太田信之輔
村井貞敏
中岡信喜

至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一
至自一三、二、一

中佐大佐
石川信
鈴木老信
鈴木老信
鈴木老信
鈴木老信
鈴木老信

至自現、九、一〇
至自現、九、一〇

同
中佐大佐
中佐大佐
河野通俊

至自一五、二、一
至自一五、二、一
至自一五、二、一
至自一五、二、一
至自一五、二、一
至自一五、二、一

ブルガリヤ武官
中佐大佐
石川信
石川信
石川信
石川信
石川信

至自一三、二、一
至自一三、二、一

同
中佐大佐
和智恒藏

米國武官

任期	當時官	現官	氏名
自一八八二至一八八三	大佐	中將	小林謙五
自一八八三至一八八四	大佐	少將	小川貫壘
自一八八四至一八八五	中佐	少將	横小一郎

同輔佐官

任期	當時官	現官	氏名
自一八八三至一八八四	少佐	少將	三浦艦三
自一八八四至一八八五	大佐	少將	志岐常雄
自一八八五至一八八六	大佐	大佐	田村三郎
自一八八六至一八八七	中佐	中佐	田口大郎
自一八八七至一八八八	中佐	中佐	無着仙明
自一八八八至一八八九	中佐	中佐	木阪義胤
自一八九〇至一八九一	中佐	中佐	寺井義守
自一八九一至今	大佐	大佐	實松謙

力ナダ武官

任期	當時官	現官	氏名
自一八八二至一八八三	中佐	少將	濱中匡南
自一八八三至一八八四	大佐	少將	佐藤勝也

同輔佐官

任期	當時官	現官	氏名
自一八八三至一八八四	少佐	大佐	和智恒藏

比律賓武官

任期	當時官	現官	氏名
自一八八二至一八八三	中佐	少將	竹内馨
自一八八三至一八八四	大佐	少將	山路一行

同輔佐官

任期	當時官	現官	氏名
自一八八三至一八八四	少佐	大佐	花岡雄二
自一八八四至今	中佐	中佐	山本繁一

泰國武官

任期	當時官	現官	氏名
自一八八二至一八八三	大佐	少將	石畑四郎
自一八八三至今	大佐	少將	間直顯

同輔佐官

任期	當時官	現官	氏名
自一八八三至今	少佐	中佐	篠田憲一
自一八八四至今	中佐	中佐	高塚忠夫
自一八八五至今	少佐	中佐	小柴直貞
自一八八六至今	少佐	中佐	箱見高男

任期	當時官	現官	氏名
自一八八二至今	中佐	少將	中堂觀惠
自一八八三至今	大佐	少將	高越新一
自一八八四至今	中佐	少將	高塚忠夫
自一八八五至今	大佐	少將	左近丸高正
自一八八六至今	大佐	少將	小倉真二
自一八八七至今	大佐	少將	佐藤勝也

自一八八六
至二〇〇四
現 女一四
少大
將佐
少將
中堂親忠
佐藤勝也

自一〇六一
至一〇七一
現 五九
少中
將佐
少將
花田行武
重廣篤雄
雪下勝美

自一〇二一
至一〇二五
現 八二
少中
將佐
少將
花田行武
重廣篤雄

自一〇三一
至一〇三九
現 五九
少中
將佐
少將
花田行武
重廣篤雄
雪下勝美

自一〇七五
至一〇八五
現 二五
少佐
中佐
中山定義

自一〇六六
至一〇六九
現 二九
少佐
中佐
重廣篤雄

自一〇三三
至一〇三三
現 二五
少將
大將
本田忠雄

自一〇四二
至一〇四二
現 二六
少將
大將
野村直邦

自一〇五〇
至一〇五〇
現 二五
少將
大將
志村清一

自一〇六一
至一〇六一
現 二五
少將
大將
全澤正夫

自一〇六二
至一〇六二
現 二五
少將
大將
代谷清志

自一〇六四
至一〇六四
現 二五
少將
大將
前田裕

自一〇六六
至一〇六六
現 二五
少將
大將
中村裕

自一〇六八
至一〇六八
現 二五
少將
大將
前田裕

自一〇七〇
至一〇七〇
現 二五
少將
大將
小川貫

自二〇〇四
至二〇〇四
現 二四
中輔佐官
稻見高男

自一〇五一
至一〇五一
現 二〇
少輔佐官
龜田正

自一〇五八
至一〇五八
現 二〇
少輔佐官
龜田正

自一〇五三
至一〇五三
現 二〇
少輔佐官
龜田正

自一〇五二
至一〇五二
現 二〇
少輔佐官
龜田正

自一〇三三
至一〇三三
現 二五
中輔佐官
小別當惣三

自一〇三五
至一〇三五
現 二五
中輔佐官
桑原重遠

自一〇三六
至一〇三六
現 二五
中輔佐官
津野亦男

自一〇三八
至一〇三八
現 二五
中輔佐官
南田隆男

自一〇四〇
至一〇四〇
現 二五
中輔佐官
谷岡平八郎

自一〇四二
至一〇四二
現 二五
中輔佐官
赤木敏郎

自一〇四四
至一〇四四
現 二五
中輔佐官
小柴直貞

自一〇四六
至一〇四六
現 二五
中輔佐官
小島勇雄

自一〇四八
至一〇四八
現 二五
中輔佐官
北浦量男

自一〇五〇
至一〇五〇
現 二五
中輔佐官
本田勝熊

至 現	至 一 九	至 一 九	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五
五	九	九	六	三	七	一	一	一	一
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
將	將	將	將	將	將	將	將	將	將
中	中	大	少	少	少	少	少	少	少
將	佐	佐	將	將	將	將	將	將	將
阿	山	光	平	平	平	平	平	平	平
部	仲	延	出	出	出	出	出	出	出
勝	傳	東	英	英	英	英	英	英	英
雄	吾	洋	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫

伊國武官

至 現	至 一 九	至 一 九	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五
五	九	九	六	三	七	一	一	一	一
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
將	將	將	將	將	將	將	將	將	將
中	中	大	少	少	少	少	少	少	少
將	佐	佐	將	將	將	將	將	將	將
山	山	田	村	久	三	三	三	三	三
神	神	村	久	三	三	三	三	三	三
傳	傳	久	三	三	三	三	三	三	三
吾	吾	三	三	三	三	三	三	三	三

同輔佐官

至 現	至 一 九	至 一 九	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五
五	九	九	六	三	七	一	一	一	一
大	少	少	中	中	中	中	中	中	中
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
大	中	中	大	大	大	大	大	大	大
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
山	山	田	村	久	三	三	三	三	三
神	神	村	久	三	三	三	三	三	三
傳	傳	久	三	三	三	三	三	三	三
吾	吾	三	三	三	三	三	三	三	三

至 現	至 一 九	至 一 九	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五
五	九	九	六	三	七	一	一	一	一
少	大	少	中	中	中	中	中	中	中
將	佐	將	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
少	少	大	少	少	少	少	少	少	少
將	將	將	將	將	將	將	將	將	將
小	橫	遠	小	小	小	小	小	小	小
島	井	藤	島	島	島	島	島	島	島
秀	忠	喜	秀	秀	秀	秀	秀	秀	秀
雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄

獨國武官

至 現	至 一 九	至 一 九	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五
五	九	九	六	三	七	一	一	一	一
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
將	將	將	將	將	將	將	將	將	將
中	中	大	少	少	少	少	少	少	少
將	佐	佐	將	將	將	將	將	將	將
山	山	田	村	久	三	三	三	三	三
神	神	村	久	三	三	三	三	三	三
傳	傳	久	三	三	三	三	三	三	三
吾	吾	三	三	三	三	三	三	三	三

同輔佐官

至 現	至 一 九	至 一 九	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五
五	九	九	六	三	七	一	一	一	一
大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
將	將	將	將	將	將	將	將	將	將
近	矢	矢	矢	矢	矢	矢	矢	矢	矢
藤	野	野	野	野	野	野	野	野	野
泰	英	英	英	英	英	英	英	英	英
一	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄
耶	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄

英國武官

至 現	至 一 九	至 一 九	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五	至 一 五
五	九	九	六	三	七	一	一	一	一
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
將	將	將	將	將	將	將	將	將	將
中	中	大	少	少	少	少	少	少	少
將	佐	佐	將	將	將	將	將	將	將
山	山	田	村	久	三	三	三	三	三
神	神	村	久	三	三	三	三	三	三
傳	傳	久	三	三	三	三	三	三	三
吾	吾	三	三	三	三	三	三	三	三

同輔佐官

川瀨 兼

米國武官

任期	當時官	現官	氏名
自二一八二八 至二一八二八	大佐	中將	小林謙五
自二一八二八 至二一八二八	中佐	少將	小川貫聖
自二一八二八 至二一八二八	中佐	少將	横山一郎

同輔佐官

任期	當時官	現官	氏名
自二一八二八 至二一八二八	少佐	少將	三浦艦三
自二一八二八 至二一八二八	大佐	大佐	志岐常雄
自二一八二八 至二一八二八	中佐	中佐	田村三郎
自二一八二八 至二一八二八	中佐	中佐	田口太郎
自二一八二八 至二一八二八	中佐	中佐	無着仙明
自二一八二八 至二一八二八	中佐	中佐	木阪義胤
自二一八二八 至二一八二八	中佐	中佐	寺井義守
自二一八二八 至二一八二八	大佐	大佐	實松謙

力ナダ武官

任期	當時官	現官	氏名
自二一八二八 至二一八二八	中佐	少將	瀨中匡南
自二一八二八 至二一八二八	大佐	大佐	佐藤勝也

同輔佐官

任期	當時官	現官	氏名
自二一八二八 至二一八二八	少佐	大佐	初智恒藏

比律賓武官

任期	當時官	現官	氏名
自二一八二八 至二一八二八	中佐	少將	竹内馨
自二一八二八 至二一八二八	大佐	大佐	山路一行
自二一八二八 至二一八二八	少將	少將	石畑四郎
自二一八二八 至二一八二八	大佐	大佐	間直顯
自二一八二八 至二一八二八	少將	少將	平出英夫

同輔佐官

任期	當時官	現官	氏名
自二一八二八 至二一八二八	中佐	大佐	花岡雄二
自二一八二八 至二一八二八	少佐	中佐	小本繁一

泰國武官

任期	當時官	現官	氏名
自二一八二八 至二一八二八	中佐	少將	中堂觀志
自二一八二八 至二一八二八	大佐	大佐	高越新一
自二一八二八 至二一八二八	中佐	中佐	高塚忠夫
自二一八二八 至二一八二八	少將	少將	左近允高正
自二一八二八 至二一八二八	大佐	大佐	小倉真二
自二一八二八 至二一八二八	少將	少將	佐藤勝也

同輔佐官

任期	當時官	現官	氏名
自二一八二八 至二一八二八	少佐	中佐	篠田憲一
自二一八二八 至二一八二八	中佐	中佐	高塚忠夫
自二一八二八 至二一八二八	少佐	少佐	小柴直貞
自二一八二八 至二一八二八	中佐	中佐	稻見高男

Original

芝大佐